

第13章 ひとりぐらし高齢者（単身世帯）の生活実態

本章では、ひとりぐらし高齢者（1,004人）の生活実態について、1ひとりぐらし高齢者の概況、2家族、3健康、4介護保険制度、5住まい、6デジタルの利用、7コミュニケーション・社会参加、8就業・経済、9高齢者に対する必要な施策や支援の9つの側面から概観する。

1 ひとりぐらし高齢者の概況

（1）ひとりぐらし高齢者の推移

ひとりぐらし高齢者の割合は、世帯類型別にみると、29.1%となっている。（図13-1）
過去調査（昭和55年～）からの推移をみると、ひとりぐらし高齢者の割合は、調査を開始した昭和55年から一貫して増加し続けている。

男女別にみると、ひとりぐらし高齢者の割合は、男性22.7%、女性35.4%となっており、男性は昭和60年から一貫して増加し続けている。また、令和2年度調査に比べて女性は10.2ポイント増加している。（図13-2）

図13-1 世帯類型

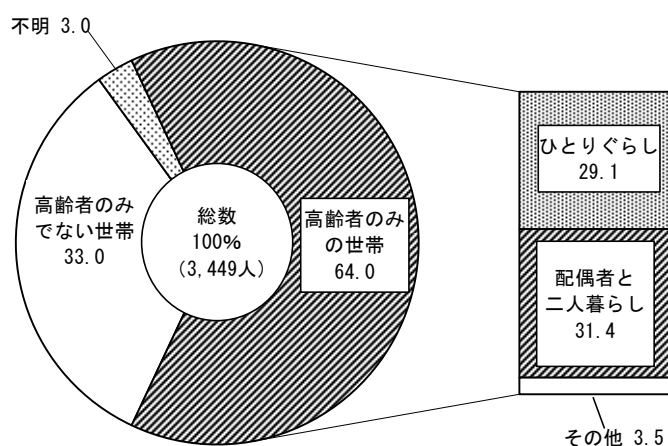
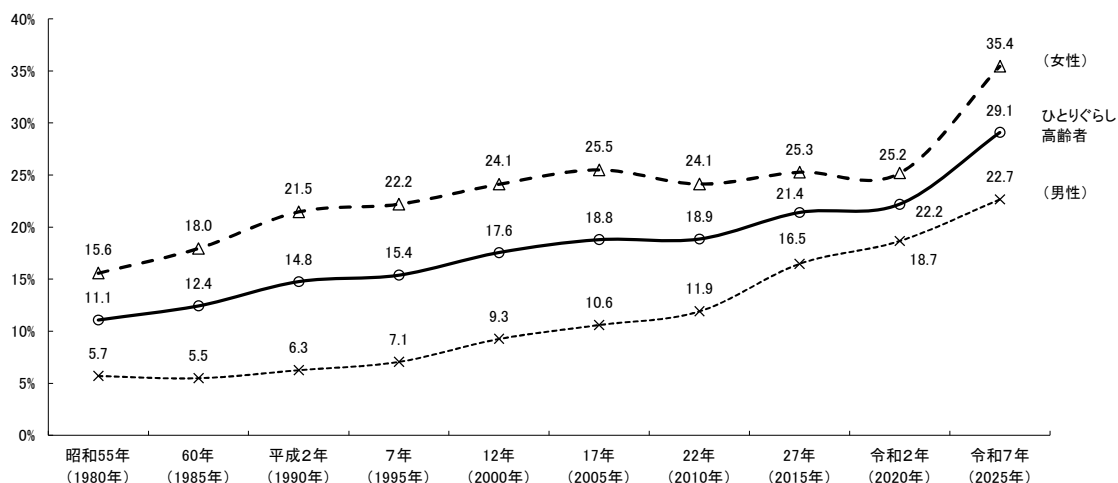


図13-2 ひとりぐらし高齢者の割合の推移



(2) 年齢階級－性別、全数との比較

男性の前期高齢者（65～74 歳）の割合は全数より高くなっている

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）の年齢階級は、前期高齢者（65～74 歳）が 39.5%、後期高齢者（75 歳以上）が 60.5%で、全数（前期高齢者 43.0%、後期高齢者 57.0%）と比較すると、後期高齢者の割合が高くなっている。

また、男性の前期高齢者の割合は 51.9%で、全数における男性の前期高齢者（47.7%）と比較すると、4.2 ポイント高くなっている。（表 13-1）

表 13-1 年齢階級－性別、全数との比較

	総 数	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 ～ 7 9 歳	8 0 ～ 8 4 歳	8 5 歳 以上	7 5（再 掲） 以上	平 均 （歳）
ひとりぐらし 高齢者	100.0 (1,004)	19.8	19.7	24.8	16.9	18.7	60.5	77.2
男	100.0 (387)	27.6	24.3	23.3	13.2	11.6	48.1	75.0
女	100.0 (617)	14.9	16.9	25.8	19.3	23.2	68.2	78.5
全数	100.0 (3,449)	21.4	21.6	25.4	16.0	15.6	57.0	76.5
男	100.0 (1,708)	24.2	23.5	25.6	15.0	11.6	52.3	75.5
女	100.0 (1,741)	18.7	19.8	25.1	16.9	19.6	61.6	77.4

（注）全数とは、今回調査における高齢者全体（3,449 人）をいう（ひとりぐらし高齢者も含む。）。

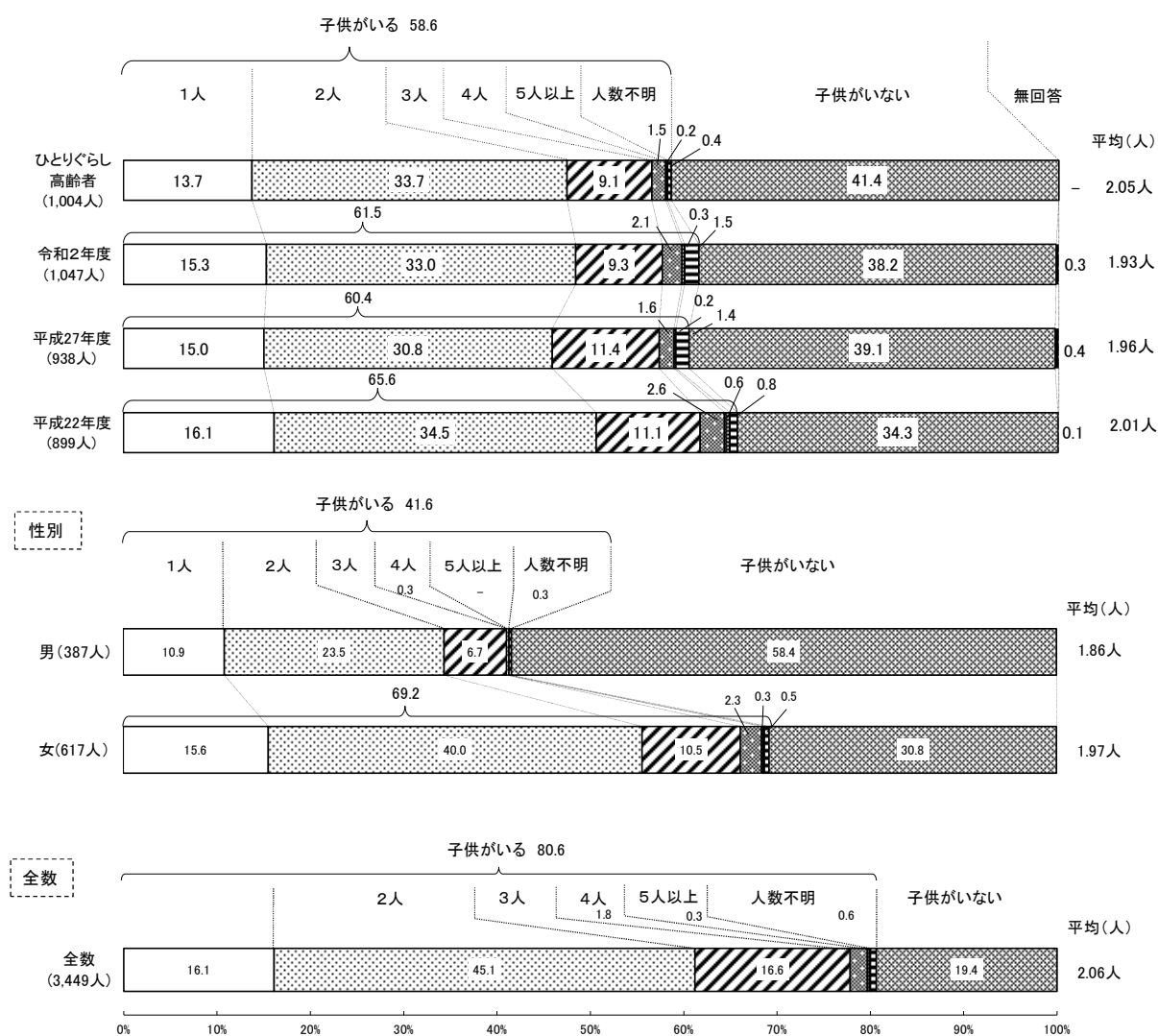
(3) 子供の有無・人数－性別、全数との比較

「子供がいる」割合は男性 41.6%、女性 69.2%

ひとりぐらし高齢者(1,004人)における子供がいる割合は58.6%で、平均人数は2.05人となっている。また、性別でみると、子供がいる割合は、男性41.6%、女性69.2%となっている。

子供がいる割合を全数(80.6%)と比較すると22.0ポイント低くなっている。(図13-3)

図13-3 子供の有無・人数－性別、全数との比較



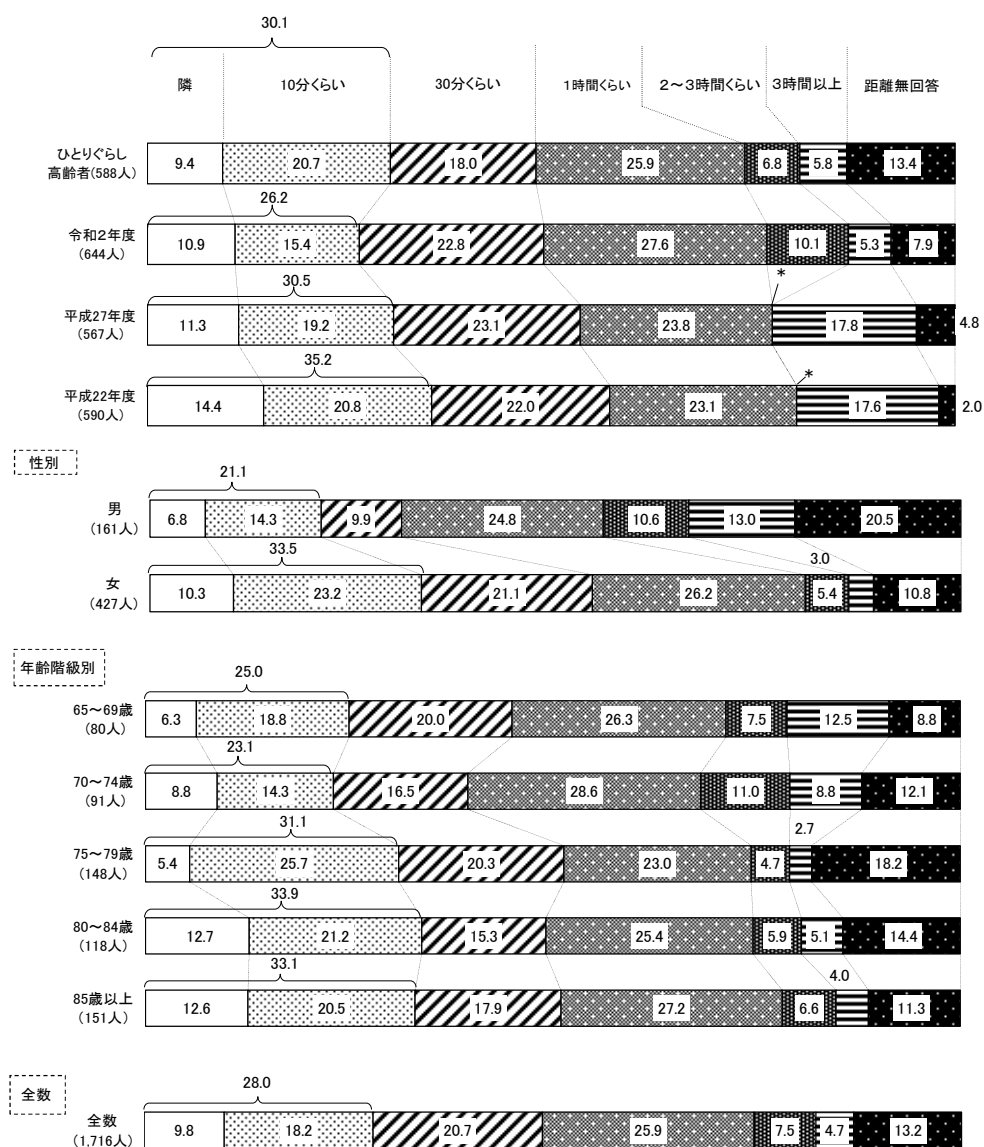
2 家族

(1) 別居している子供との距離一性、年齢階級別、全数との比較

10 分くらいまでの距離に子供が住んでいる割合は男性 21.1%、女性 33.5%

子供と別居しているひとりぐらし高齢者（588 人）と一番近くに住んでいる子供との距離を性別にみると、「隣」と「10 分くらい」を合わせた 10 分くらいまでの距離に子供が住んでいる割合は、男性 21.1%、女性 33.5%で、女性の方が 12.4 ポイント高くなっている。（図 13-4）

図 13-4 別居している子供との距離一性、年齢階級別、全数との比較



(注1) 通常行き来する方法（徒歩、バス、電車など）による時間を聞いた。

(注2) 全数とは、高齢者全体のうち子供と別居している高齢者 1,716 人。

(注3) *は、平成 27 年度以前の調査では選択肢を設けておらず、「2～3時間くらい」の回答は「3時間以上」の中に含まれる。

3 健康

(1) 健康状態一性、年齢階級別、全数との比較

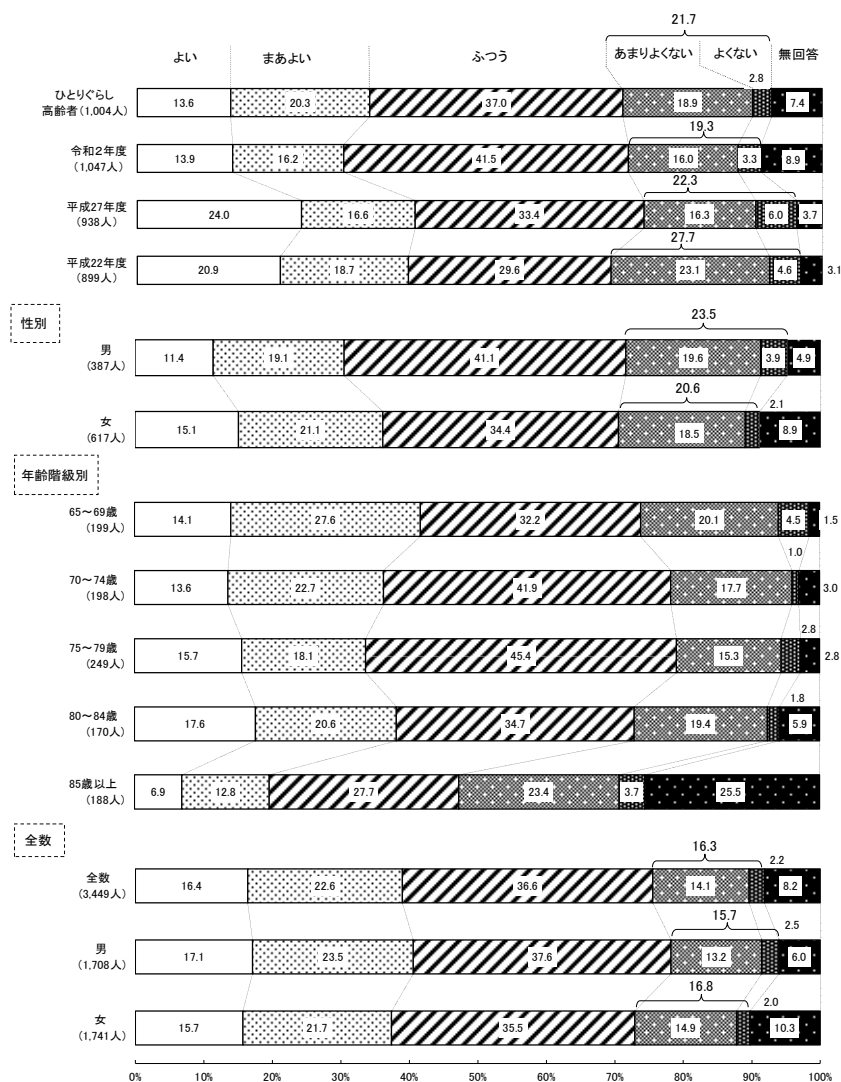
健康状態が「あまりよくない」と「よくない」と感じている割合は、21.7%となっており、全数と比較して高い

ひとりぐらし高齢者（1,004人）に健康状態をどのように感じているか聞いたところ、「ふつう」が37.0%で最も高く、次いで「まあよい」が20.3%、「あまりよくない」が18.9%となっている。

また、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は21.7%となっており、全数（16.3%）と比較すると、5.4ポイント高くなっている。

性別でみると、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、高齢者全体では男性より女性が高く（男性15.7%、女性16.8%）、ひとりぐらしの人では、女性より男性が高くなっている（男性23.5%、女性20.6%）。高齢者全体の男性とひとりぐらし高齢者の男性を比較すると、ひとりぐらし高齢者の男性の方が7.8ポイント高くなっている。（図13-5）

図13-5 健康状態一性、年齢階級別、全数との比較



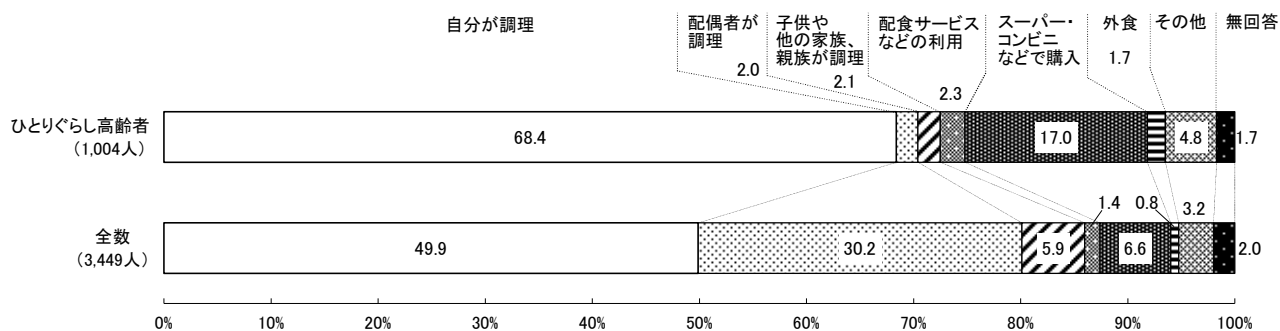
（２）食事の状況－全数との比較

ひとりぐらし高齢者（1,004人）の普段の食事の状況をみると、食事の用意は「自分が調理」の割合が最も高く 68.4%、次いで「スーパー・コンビニなどで購入」が 17.0%となっている。

「自分が調理」の割合を全数（49.9%）と比較すると、18.5 ポイント高くなっている。

（図 13-6）

図 13-6 食事の状況－全数との比較



(3) 日常生活動作 (ADL)

ア 日常生活動作 (ADL) (聴力、視力、意思伝達、歩行、食事、着替え、入浴、排せつ)

日常生活動作能力 (ADL) を「聴力」「視力」「意思伝達」「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排せつ」の8項目の回答状況を表示したのが表 13-2 である。

ひとりぐらし高齢者 (1,004 人) の日常生活動作 (聴力、視力、意思伝達) の項目において、「日常生活に支障はない」の割合は、「聴力」60.0%、「視力」53.4%、「意思伝達」70.6%となっている。また、日常生活動作 (歩行、食事、着替え、入浴、排せつ) の項目において、「ひとりで全部できる」の割合は8割以上となっている (81.0%~91.7%)。(表 13-2)

表 13-2 日常生活動作 (ADL) (聴力、視力、意思伝達、歩行、食事、着替え、入浴、排せつ)

	A		B	
聴 力 ※ 1	1 日常生活に支障はない	60.0 (60.4)	4 日常生活に支障がある	3.2 (3.3)
	2 日常生活にほとんど支障はない	20.2 (20.3)		
	3 日常生活に多少支障がある	14.3 (14.0)		
視 力 ※ 2	1 日常生活に支障はない	53.4 (55.2)	3 日常生活に多少支障がある	13.2 (12.1)
	2 日常生活にほとんど支障はない	28.5 (28.4)	4 日常生活に支障がある	1.5 (1.5)
意 思 伝 達	1 日常生活に支障はない	70.6 (70.1)	3 日常生活に多少支障がある	7.8 (7.0)
	2 日常生活にほとんど支障はない	16.6 (18.2)	4 日常生活に支障がある	1.5 (1.6)
歩 行 ※ 3	1 ひとりで全部できる	81.0 (83.6)	3 一部介助が必要	4.8 (4.1)
	2 時間をかければひとりでできる	10.3 (8.8)	4 全面的な介助が必要	2.2 (2.1)
食 事	1 ひとりで全部できる	91.7 (92.6)	3 一部介助が必要	1.3 (1.0)
	2 時間をかければひとりでできる	4.4 (4.2)	4 全面的な介助が必要	1.0 (0.7)
着 替 え	1 ひとりで全部できる	90.1 (90.9)	3 一部介助が必要	1.9 (1.9)
	2 時間をかければひとりでできる	5.1 (4.4)	4 全面的な介助が必要	1.3 (1.3)
入 浴	1 ひとりで全部できる	87.7 (89.5)	3 一部介助が必要	3.5 (3.0)
	2 時間をかければひとりでできる	3.9 (3.0)	4 全面的な介助が必要	3.2 (3.1)
排 せ つ	1 ひとりで全部できる	91.6 (92.2)	3 一部介助が必要	2.1 (1.7)
	2 時間をかければひとりでできる	3.3 (3.2)	4 全面的な介助が必要	1.3 (1.3)

(注 1) () 内は全数3,449人の割合である。

(注 2) ※ 1 普段、補聴器を使用している場合は、補聴器を使用した状態で回答している。

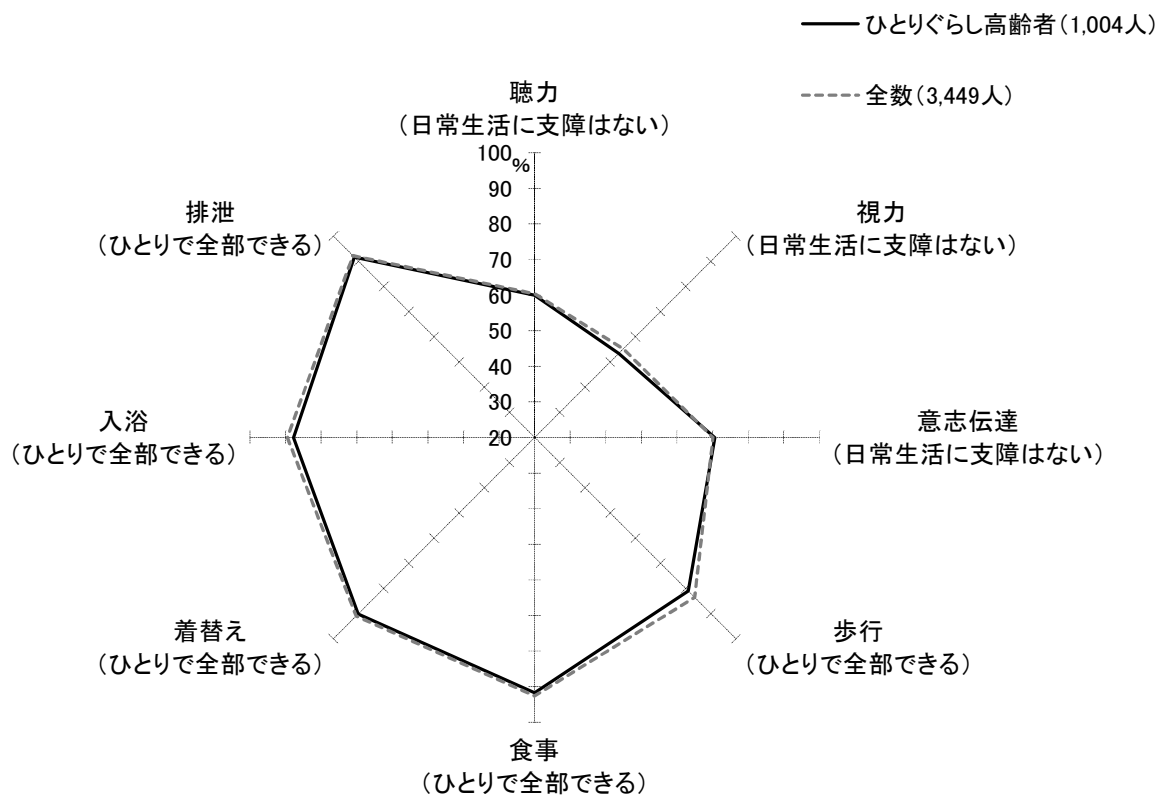
(注 3) ※ 2 普段、眼鏡を使用している場合は、眼鏡を使用した状態で回答している。

(注 4) ※ 3 普段、杖や車椅子等を使用している場合は、それらを使用した状態で回答している。

(注 5) A・B 欄は「動作能力類型」(P50参照)を作成するための分類である。

下の図 13-7 は、表 13-2 の各項目で「1」と答えた、ADLに問題のない高齢者の割合を示したものである。

図 13-7 ADLに問題のない高齢者の割合－全数との比較



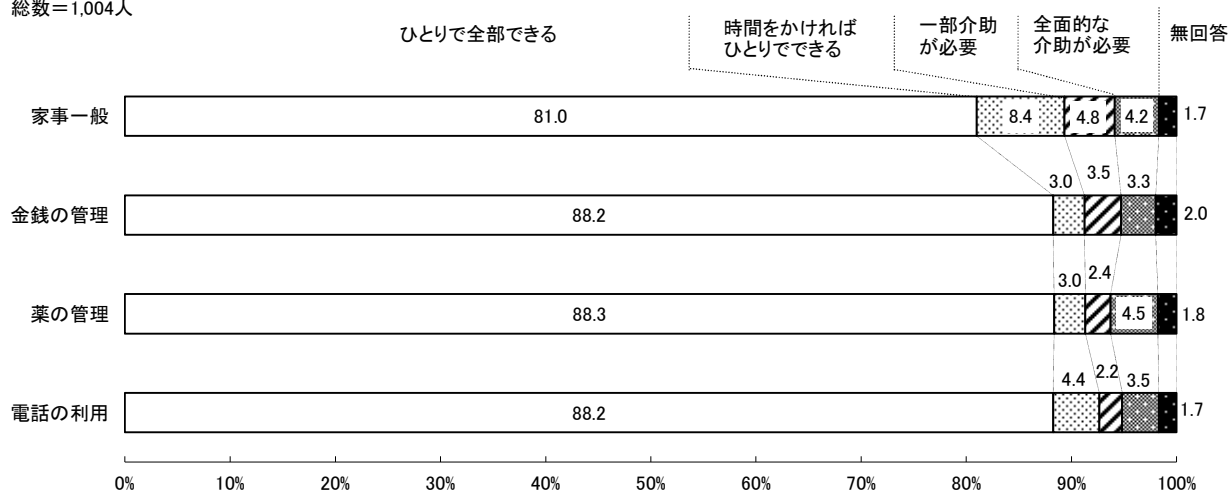
イ 日常生活動作（ＡＤＬ）（家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用）

ひとりぐらし高齢者（1,004人）の日常生活動作（家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用）の項目において、「ひとりで全部できる」の割合は、「家事一般」81.0%、「金銭の管理」88.2%、「薬の管理」88.3%、「電話の利用」88.2%となっている。（図13-8）

図 13-8 日常生活動作（ＡＤＬ）（家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用）

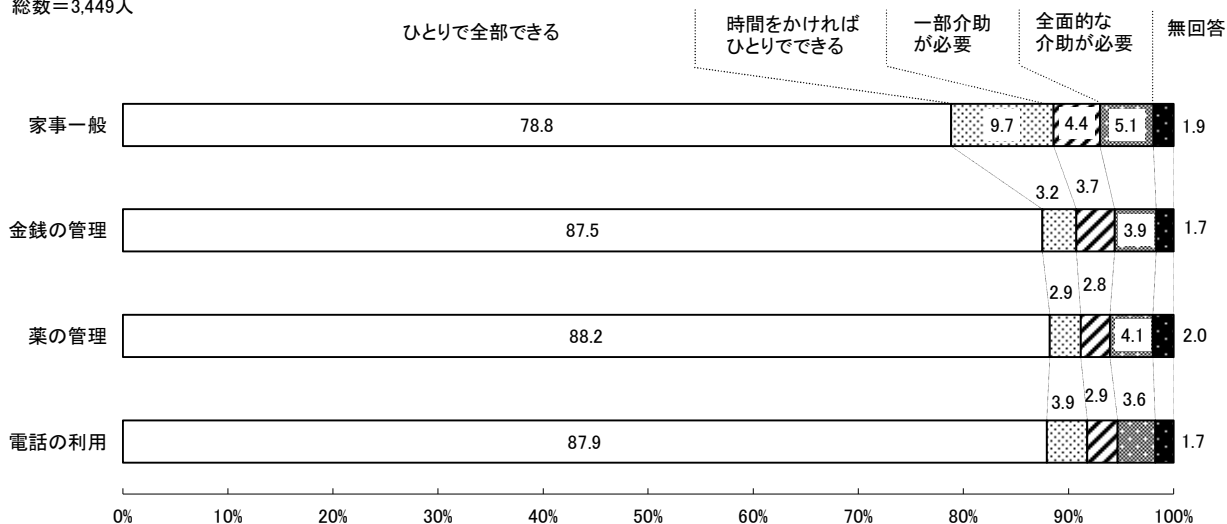
《ひとりぐらし高齢者》

総数＝1,004人



《全数》

総数＝3,449人



(4) 動作能力類型一性・年齢階級別、全数との比較

「寝たきりなどの高齢者」は、男性よりも女性の割合が高い

動作能力類型では、「障害のない高齢者」の割合が39.0%で最も高くなっている。

性別でみると、「寝たきりなどの高齢者」の割合は、男性2.8%、女性10.0%で女性の方が高くなっている。(表13-3)

表13-3 動作能力類型一性・年齢階級別、全数との比較

		総 数	寝 た き り な ど の 高 齢 者	寝 た き り 高 齢 者	寝 た き り に 近 い 高 齢 者	高 比 較 的 重 い 障 害 の あ る 高 齢 者	軽 い 障 害 の あ る 高 齢 者	障 害 の な い 高 齢 者	無 回 答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	7.3	2.8	4.5	12.5	30.2	<u>39.0</u>	11.1
性・ 年齢 階級 別	男	100.0 (387)	<u>2.8</u>	0.8	2.1	14.7	33.9	37.2	11.4
	65～74歳	100.0 (201)	0.5	0.5	—	11.9	37.3	42.3	8.0
	75歳以上	100.0 (186)	5.4	1.1	4.3	17.7	30.1	31.7	15.1
	女	100.0 (617)	<u>10.0</u>	4.1	6.0	11.0	27.9	40.2	10.9
	65～74歳	100.0 (196)	0.5	0.5	—	10.2	27.6	57.1	4.6
	75歳以上	100.0 (421)	14.5	5.7	8.8	11.4	28.0	32.3	13.8
全数		100.0 (3,449)	7.9	2.9	5.1	11.4	30.3	40.7	9.7

(注) 動作能力類型は、50 頁を参照。

4 介護保険制度

(1) 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

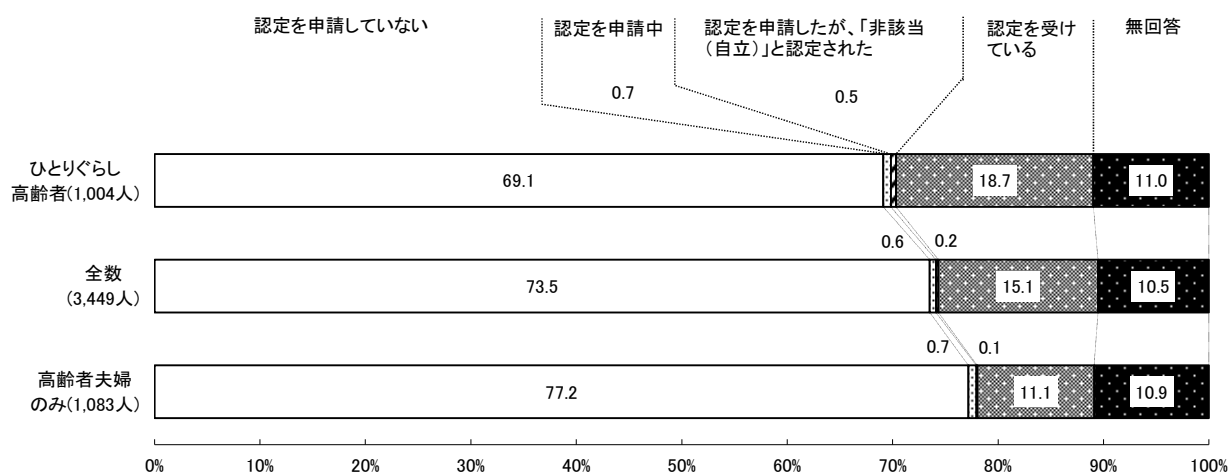
－全数、高齢者夫婦のみの世帯との比較

ひとりぐらし高齢者（1,004人）における介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無をみると、「認定を受けている」人の割合は18.7%、「認定を申請していない」人は69.1%となっている。

「認定を受けている」割合を全数（15.1%）と比較すると、3.6ポイント高くなっている。また、高齢者夫婦のみの世帯（11.1%）と比較すると、7.6ポイント高くなっている。
（図 13-9）

図 13-9 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

－全数、高齢者夫婦のみの世帯との比較



(2) 要支援・要介護度

一性、年齢階級、動作能力類型別、全数・高齢者夫婦のみの世帯との比較

「要支援 1」及び「要支援 2」の割合が最も高く、24.5%

ひとりぐらし高齢者で要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（188 人）の要支援・要介護度をみると、「要支援 1」及び「要支援 2」の割合が 24.5%で最も高く、次いで「要介護 1」が 16.0%となっている。（表 13-4）

表 13-4 要支援・要介護度

一性、年齢階級、動作能力類型別、全数・高齢者夫婦のみの世帯との比較

		総 数	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	わ か ら な い は 要 介 護 度 ・ 要 支 援 は
ひとりぐらし高齢者		100.0 (188)	24.5	24.5	16.0	9.0	7.4	4.3	6.9	7.4
性別	男	100.0 (47)	17.0	29.8	14.9	2.1	10.6	4.3	2.1	19.1
	女	100.0 (141)	27.0	22.7	16.3	11.3	6.4	4.3	8.5	3.5
年齢 階級	65～74歳	100.0 (20)	25.0	20.0	15.0	5.0	—	5.0	—	30.0
	75歳以上	100.0 (168)	24.4	25.0	16.1	9.5	8.3	4.2	7.7	4.8
動作 能力 類型 別	寝たきりなどの 高齢者	100.0 (67)	7.5	14.9	20.9	13.4	14.9	9.0	16.4	3.0
	比較的重い障害 のある高齢者	100.0 (29)	37.9	31.0	10.3	10.3	3.4	3.4	—	3.4
	軽い障害のある 高齢者	100.0 (33)	39.4	24.2	12.1	9.1	6.1	—	—	9.1
	障害のない高齢 者	100.0 (18)	38.9	27.8	16.7	—	—	5.6	—	11.1
全数		100.0 (522)	21.5	19.2	16.9	13.0	10.3	6.1	6.1	6.9
高齢者夫婦のみ		100.0 (120)	29.2	15.0	16.7	15.0	8.3	4.2	5.0	6.7

(3) 介護の状況（ひとりぐらし高齢者が介護を受けている状況）

ア 介護をしている人〔複数回答〕－性別、全数との比較

介護をしている人は「親族」の割合が 52.0%、「親族以外」の割合が 75.2%

ひとりぐらし高齢者で要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（125 人）を誰が介護しているかについてみると、「親族」の割合が 52.0%、「親族以外」が 75.2%となっている。また、「親族」では「子供」の割合が 40.8%で最も高く、「親族以外」では「ホームヘルパーなどの介護職員」が 64.8%で最も高くなっている。

「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合を全数（39.4%）と比較すると、25.4 ポイント高くなっている。（表 13-5）

表 13-5 介護をしている人〔複数回答〕－性別、全数との比較

		総 数	親 族	1 配 偶 者	2 子 供	3 子 供 の 配 偶 者	4 孫 ま た は そ の 配 偶 者	5 兄 弟 姉 妹	6 1 5 以 外 の 親 族	親 族 以 外	7 ホ ー ム ヘ ル パ ー な ど の 介 護 職 員	8 訪 問 看 護 師	9 近 所 の 人 ・ 友 人 ・ 知 人	10 そ の 他
ひとりぐらし高齢者		100.0 (125)	<u>52.0</u>	1.6	<u>40.8</u>	10.4	4.8	4.0	4.0	<u>75.2</u>	<u>64.8</u>	20.0	0.8	2.4
性 別	男	100.0 (29)	34.5	3.4	17.2	3.4	3.4	3.4	6.9	75.9	62.1	20.7	3.4	3.4
	女	100.0 (96)	57.3	1.0	47.9	12.5	5.2	4.2	3.1	75.0	65.6	19.8	－	2.1
全数		100.0 (378)	77.2	27.2	52.6	9.0	4.5	2.6	1.9	49.2	<u>39.4</u>	18.3	0.5	2.9

イ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人－性別、全数との比較

最も長い時間、介護をしている人は「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が高く、約5割

ひとりぐらし高齢者で要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（125人）を誰が最も長い時間介護しているかについてみると、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が52.0%で最も高く、次いで「子供」（25.6%）となっている。

「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合を全数（24.3%）と比較すると、27.7ポイント高くなっている。（表13-6）

表13-6 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人－性別、全数との比較

		総数	親族	1 配偶者	2 子供	3 子供の配偶者	4 孫またはその配偶者	5 兄弟姉妹	6 1～5以外の親族	親族以外	7 ホームヘルパーなどの介護職員	8 訪問看護師	9 近所の人・友人・知人	10 その他	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (125)	34.4	1.6	25.6	1.6	0.8	3.2	1.6	60.8	52.0	5.6	0.8	2.4	4.8
性別	男	100.0 (29)	27.6	3.4	13.8	3.4	3.4	－	3.4	72.4	58.6	6.9	3.4	3.4	－
	女	100.0 (96)	36.5	1.0	29.2	1.0	－	4.2	1.0	57.3	50.0	5.2	－	2.1	6.3
全数		100.0 (378)	66.7	24.6	35.4	3.2	0.8	1.6	1.1	29.9	24.3	2.9	0.3	2.4	3.4

(4) フレイルの認知度 ― 性・年齢階級別、全数との比較

フレイルを「知っている」割合は男性 24.0%、女性 47.6%

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）のフレイルの認知度をみると、「知っている」割合が 38.5%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が 13.3%となっている。一方、「知らない」の割合は 37.8%となっている。

性別でみると、「知っている」の割合は、男性 24.0%、女性 47.6%となっている。（表 13-7）

表 13-7 フレイルの認知度 ― 性・年齢階級別、全数との比較

		総 数	知 っ て い る	中 身 は 聞 い た こ と が あ る	知 ら な い	無 回 答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	<u>38.5</u>	<u>13.3</u>	<u>37.8</u>	10.3
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (387)	<u>24.0</u>	14.0	54.0	8.0
	65～74歳	100.0 (201)	28.4	13.4	53.2	5.0
	75～84歳	100.0 (141)	19.1	17.0	58.2	5.7
	85歳以上	100.0 (45)	20.0	6.7	44.4	28.9
	(再掲)75歳以上	100.0 (186)	19.4	14.5	54.8	11.3
	女	100.0 (617)	<u>47.6</u>	13.0	27.7	11.7
	65～74歳	100.0 (196)	55.1	13.3	28.1	3.6
	75～84歳	100.0 (278)	53.2	13.3	24.5	9.0
	85歳以上	100.0 (143)	26.6	11.9	33.6	28.0
	(再掲)75歳以上	100.0 (421)	44.2	12.8	27.6	15.4
全数		100.0 (3,449)	36.3	13.3	39.5	10.9
性 別	男	100.0 (1,708)	28.4	13.5	48.8	9.4
	女	100.0 (1,741)	44.1	13.1	30.4	12.3

5 住まい

(1) 住まいの種類一性・年齢階級別、全数との比較

現在の住居について、「持家」の割合は 56.4%

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）が現在住んでいる住宅の種類を大別すると、「持家」が 56.4%、「借家・賃貸住宅など」が 39.3%となっている。種類別にみると、「持家（一戸建て）」の割合が最も高く 36.4%、次いで「民間賃貸住宅（賃貸マンション・アパートなど）」が 25.6%、「持家（分譲マンションなど）」が 20.0%となっている。

「持家（一戸建て）」の割合は、全数（54.9%）と比較すると 18.5 ポイント低く、「民間賃貸住宅（賃貸マンション・アパートなど）」の割合は、全数（13.0%）と比較すると 12.6 ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、「持家」の割合は、女性の後期高齢者（75 歳以上）が 66.3%で最も高く、「民間賃貸住宅（賃貸マンション・アパートなど）」の割合は、男性の前期高齢者（65～74 歳）が 40.3%で最も高くなっている。（表 13-8）

表 13-8 住まいの種類一性・年齢階級別、全数との比較

		総数	持家	持家（一戸建て）	持家（分譲マンションなど）	借家・賃貸住宅など	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（賃貸マンション・アパートなど）	都・区市町村の公営賃貸住宅	都市再生機構・地方住宅供給公社などの公的賃貸住宅	社宅などの給与住宅	高齢者向け住宅 ※	その他	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	56.4	36.4	20.0	39.3	0.9	25.6	6.3	2.4	0.7	3.5	1.3	3.0
性・年齢階級別	男	100.0 (387)	48.1	31.3	16.8	47.8	1.6	37.2	4.7	1.8	1.3	1.3	1.0	3.1
	65～74歳	100.0 (201)	46.8	28.9	17.9	50.7	1.0	40.3	4.5	2.5	2.0	0.5	1.5	1.0
	75歳以上	100.0 (186)	49.5	33.9	15.6	44.6	2.2	33.9	4.8	1.1	0.5	2.2	0.5	5.4
	女	100.0 (617)	61.6		22.0	34.0	0.5	18.3	7.3	2.8	0.3	4.9	1.5	2.9
	65～74歳	100.0 (196)	51.5	28.1	23.5	43.9	1.0	32.7	6.6	2.6	0.5	0.5	1.5	3.1
	75歳以上	100.0 (421)	66.3	44.9	21.4	29.5	0.2	11.6	7.6	2.9	0.2	6.9	1.4	2.9
全数		100.0 (3,449)	75.2	54.9	20.4	21.1	1.0	13.0	3.4	1.7	0.7	1.4	1.0	2.6

（注）※は、「高齢者向け住宅」とは、シルバーピア、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなどを指す。

(2) 介護が必要になったときの高齢期の住まい

一性、年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

介護が必要になったときに住みたい場所について、「現在の住宅に住み続けたい」割合は 35.3%

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）が、介護が必要になったときに住みたい場所についてみると、「現在の住宅に住み続けたい」割合は 35.3%で、全数（43.4%）と比較すると全数の方が 8.1 ポイント高くなっている。

性別でみると、男女ともに「現在の住宅に住み続けたい」割合が最も高く（男性 32.6%、女性 37.0%）、次いで「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」となっている（男性 20.2%、女性 17.7%）。（表 13-9）

表 13-9 介護が必要になったときの高齢期の住まい

一性、年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

		総数	1 現在の住宅に住み続けたい	2 近くの子供や親族の住宅に引き続きたい	3 付加高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームなど）に入居したい	4 介護保険で入居できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい	5 生きたい（自然環境のよい住宅に移り、子育てなど）	6 その他	7 わからない	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	35.3	3.2	14.1	18.6	2.3	1.2	15.2	10.1
性別	男	100.0 (387)	32.6	3.4	14.0	20.2	4.1	0.5	18.1	7.2
	女	100.0 (617)	37.0	3.1	14.3	17.7	1.1	1.6	13.5	11.8
年齢階級別	65～69歳	100.0 (199)	29.1	5.5	16.6	21.1	4.5	0.5	18.6	4.0
	70～74歳	100.0 (198)	30.8	3.5	14.1	23.7	2.5	1.5	18.2	5.6
	75～79歳	100.0 (249)	34.9	3.2	14.9	18.5	2.0	0.8	19.3	6.4
	80～84歳	100.0 (170)	45.3	1.2	11.8	18.8	1.8	2.4	10.6	8.2
	85歳以上	100.0 (188)	37.8	2.1	12.8	10.6	0.5	1.1	7.4	27.7
住宅の種類別	持家（一戸建て）	100.0 (365)	51.2	1.1	15.1	13.7	0.8	0.8	10.1	7.1
	持家（分譲マンションなど）	100.0 (201)	42.3	1.5	25.4	13.9	-	1.0	12.9	3.0
	民間賃貸住宅（一戸建て）	100.0 (9)	-	22.2	-	44.4	-	-	33.3	-
	民間賃貸住宅（賃貸マンション・アパートなど）	100.0 (257)	15.6	7.4	10.5	26.5	6.2	1.9	25.3	6.6
	都・区・市・町村の公営賃貸住宅	100.0 (63)	42.9	3.2	3.2	31.7	3.2	-	14.3	1.6
	都市再生機構・地方住宅供給公社などの公営賃貸住宅	100.0 (24)	29.2	-	16.7	37.5	-	4.2	12.5	-
	社宅などの給与住宅	100.0 (7)	28.6	28.6	-	14.3	14.3	-	14.3	-
	高齢者向け住宅 ※	100.0 (35)	2.9	-	2.9	8.6	-	-	5.7	80.0
	その他	100.0 (13)	15.4	-	15.4	23.1	7.7	7.7	30.8	-
全数		100.0 (3,449)	43.4	1.8	12.1	15.4	1.5	0.8	13.8	11.2
性別	男	100.0 (1,708)	48.5	1.6	12.5	12.8	2.0	0.5	13.2	8.9
	女	100.0 (1,741)	38.4	2.0	11.7	18.0	1.0	1.1	14.3	13.5

（注）※は、「高齢者向け住宅」とは、シルバーピア、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなどを指す。

6 デジタルの利用

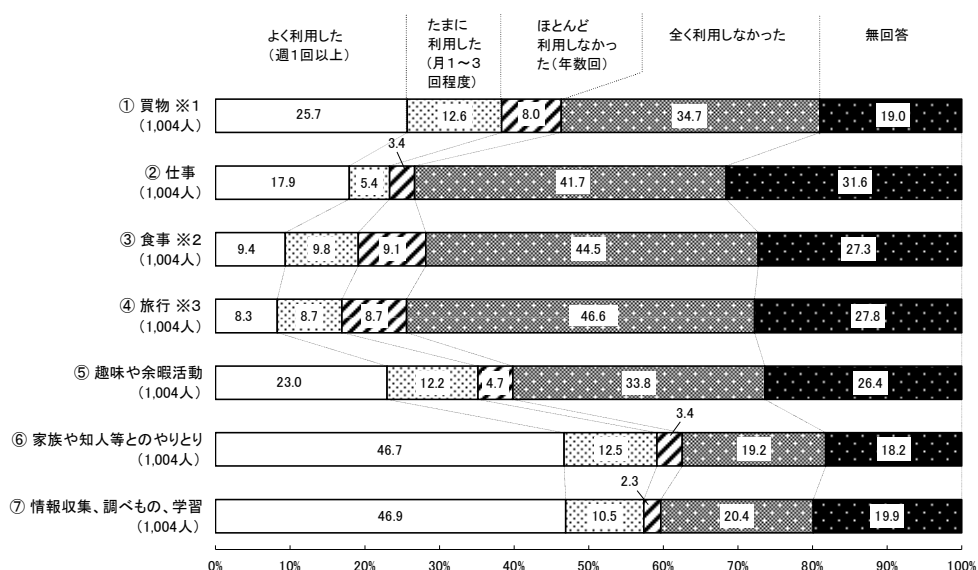
(1) 日常生活における各活動でのデジタルの利用状況－全数との比較

日常生活でデジタルを「よく利用した（週1回以上）」の割合は、「情報収集、調べもの、学習」が最も高く、46.9%

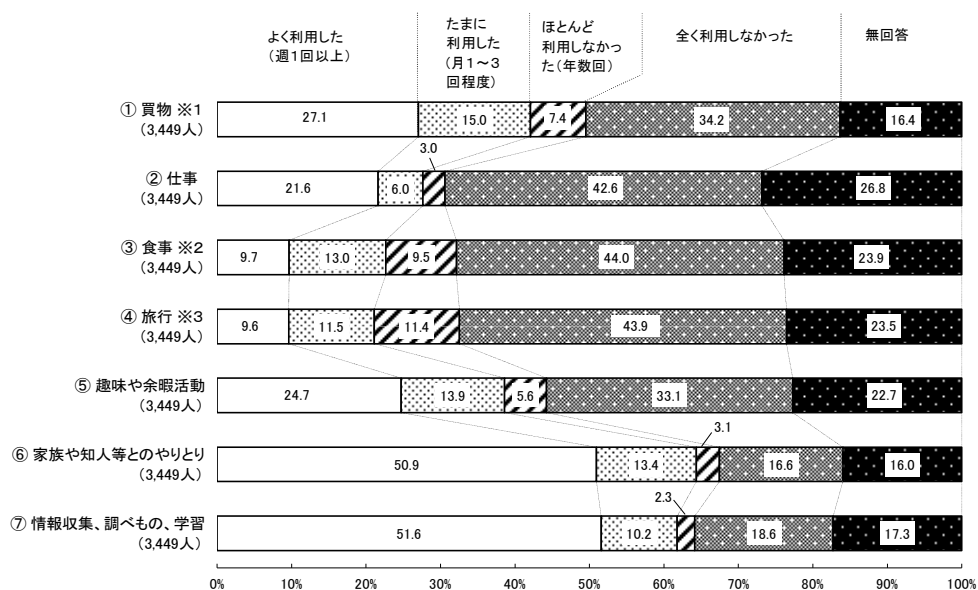
ひとりぐらし高齢者（1,004人）の日常生活における以下の①～⑦の各活動でのデジタルの利用状況を聞いたところ、「よく利用した（週1回以上）」の割合は、「⑦情報収集、調べもの、学習」が46.9%で最も高く、次いで「⑥家族や知人等とのやりとり」が46.7%となっている。（図13-10）

図13-10 日常生活における各活動でのデジタルの利用状況－全数との比較

《ひとりぐらし高齢者》



《全数》



(注1) ※1の「買物」とは、ネットショッピングの利用や、キャッシュレス決済などを指す。

(注2) ※2の「食事」とは、レストランの予約や、配達サービスの利用などを指す。

(注3) ※3の「旅行」とは、交通機関の予約や、ホテルの予約などを指す。

（２）日常生活における各活動でのデジタルを利用しなかった理由－全数との比較

日常生活における以下の①～⑦の各活動でのデジタルの利用状況において、「ほとんど利用しなかった（年数回）」と「全く利用しなかった」と回答した人に理由を聞いた。

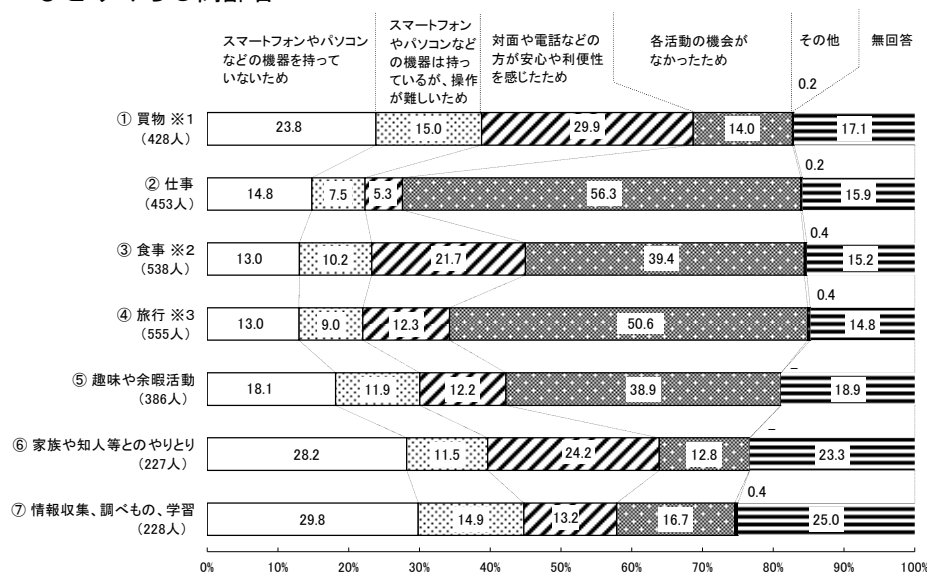
「②仕事」、「③食事」、「④旅行」及び「⑤趣味や余暇活動」ではいずれも「各活動の機会がなかったため」の割合が最も高く（38.9%～56.3%）なっている。

また、「⑥家族や知人等とのやりとり」及び「⑦情報収集、調べもの、学習」では「スマートフォンやパソコンなどの機器を持っていないため」が最も高くなっている（28.2%、29.8%）。

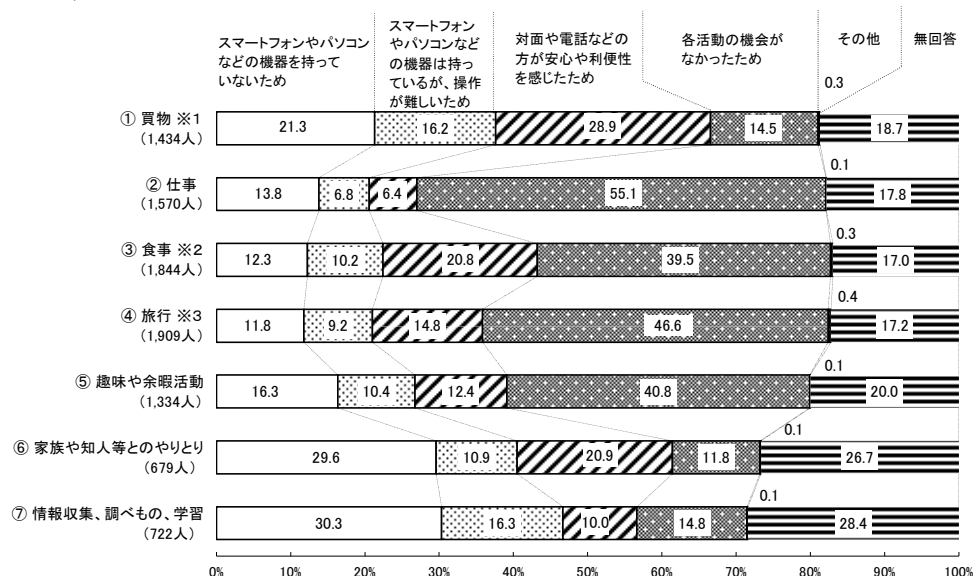
さらに、「①買い物」は「対面や電話などの方が安心や利便性を感じたため」が 29.9%と最も高くなっている。（図 13-11）

図 13-11 日常生活における各活動でのデジタルを利用しなかった理由－全数との比較

《ひとりぐらし高齢者》



《全数》



（注１）※１の「買い物」とは、ネットショッピングの利用や、キャッシュレス決済などを指す。

（注２）※２の「食事」とは、レストランの予約や、配達サービスの利用などを指す。

（注３）※３の「旅行」とは、交通機関の予約や、ホテルの予約などを指す。

7 コミュニケーション・社会参加

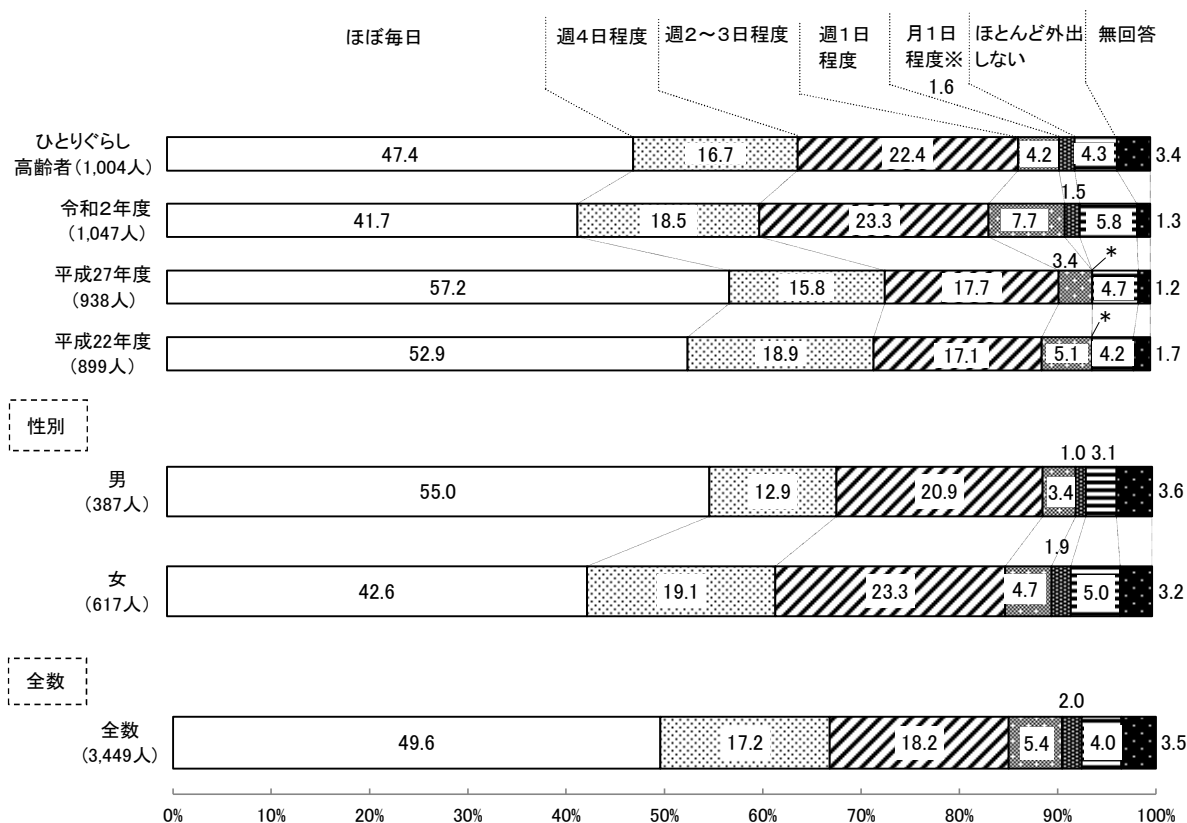
(1) 外出の頻度－性別、全数との比較

外出の頻度が「ほぼ毎日」の割合は男性 55.0%、女性 42.6%

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）の外出頻度をみると、「ほぼ毎日」の割合が 47.4%と最も高く、次いで「週 2～3 日程度」が 22.4%となっている。

性別でみると、「ほぼ毎日」の割合は、男性 55.0%、女性 42.6%で、男性の方が 12.4ポイント高くなっている。（図 13-12）

図 13-12 外出の頻度－性別、全数との比較



(注 1) 平成 27 年度以前の「週〇日程度」の選択肢は、いずれも「週〇回程度」と回数表記であり、1 日に 2 回以上外出する場合は、1 回と数えた。

(注 2) ※は、平成 27 年度以前は選択肢を設けていなかった。

(2) 近所付き合いの程度一性・年齢階級、動作能力類型別、全数との比較

全数と比較して、近所と「付き合いがない」の割合が高く、特に男性は2割超

ひとりぐらし高齢者（1,004人）の近所付き合いの程度をみると、「立ち話をする程度の人がある」の割合が31.4%と最も高くなっている。

また、「付き合いがない」の割合は17.3%で、全数（13.1%）と比較すると、4.2ポイント高くなっている。

性別にみると、「相談し合える人がある」の割合は、男性8.5%、女性21.4%で女性の方が12.9ポイント高くなっており、「付き合いがない」の割合は、男性24.3%、女性13.0%で男性の方が11.3ポイント高くなっている。（表13-10）

表13-10 近所付き合いの程度一性・年齢階級、動作能力類型別、全数との比較

		総 数	が相 談し 合える 人	の立 ち 話 を す る 程 度	のあ い さ つ を す る 程 度	付 き 合 い が な い	無 回 答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	16.4	31.4	30.7	17.3	4.2
令和2年度		100.0 (1,047)	13.5	34.6	32.0	18.1	1.9
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (387)	8.5	24.3	37.7	24.3	5.2
	65～74歳	100.0 (201)	10.9	20.4	41.8	24.9	2.0
	75歳以上	100.0 (186)	5.9	28.5	33.3	23.7	8.6
	女	100.0 (617)	21.4	35.8	26.3	13.0	3.6
	65～74歳	100.0 (196)	14.8	31.6	34.2	15.8	3.6
	75歳以上	100.0 (421)	24.5	37.8	22.6	11.6	3.6
動 作 能 力 類 型 別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (73)	4.1	19.2	30.1	38.4	8.2
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (125)	14.4	20.0	40.0	19.2	6.4
	軽い障害のある高齢者	100.0 (303)	15.2	37.0	32.0	13.2	2.6
	障害のない高齢者	100.0 (392)	19.4	33.2	29.3	16.6	1.5
全数		100.0 (3,449)	12.8	34.2	36.1	13.1	3.8

(3) 生きがいを感じているかー性、年齢階級別、全数との比較

ひとりぐらし高齢者(1,004人)が生きがい(喜びや楽しみ)を感じているかをみると、「十分感じている」と「感じている」と「多少感じている」を合わせた割合は、73.3%となっている。

性別でみると、「十分感じている」と「感じている」と「多少感じている」を合わせた割合は、男性が69.3%で、全数の男性(78.8%)と比較すると、9.5ポイント低くなっている。(表13-11)

表 13-11 生きがいを感じているかー性、年齢階級別、全数との比較

		総 数	十 分 感 じ て い る	感 じ て い る	多 少 感 じ て い る	あ ま り 感 じ て い な い	全 く 感 じ て い な い	無 回 答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	17.7	30.5	25.1	14.7	2.6	9.4
			73.3					
性 別	男	100.0 (387)	16.3	26.4	26.6	19.6	3.6	7.5
	女	100.0 (617)	18.6	33.1	24.1	11.7	1.9	10.5
			75.9					
年 齢 階 級 別	65～74歳	100.0 (397)	18.4	31.5	28.2	15.6	2.5	3.8
	75～84歳	100.0 (419)	21.2	32.2	24.6	11.7	3.3	6.9
	85歳以上	100.0 (188)	8.5	24.5	19.7	19.7	1.1	26.6
全数		100.0 (3,449)	20.8	31.8	24.6	10.6	1.8	10.4
性 別	男	100.0 (1,708)	21.2	31.8	25.8	11.2	1.8	8.2
	女	100.0 (1,741)	20.5	31.8	23.3	10.1	1.8	12.5
			75.6					

(4) 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕

－性・年齢階級、動作能力類型別、全数との比較

心配ごとや悩みごとは、「自分の健康・病気」の割合が最も高く、58.5%

ひとりぐらし高齢者(1,004人)の心配ごとや悩みごとの内容をみると、「自分の健康・病気」の割合が最も高く58.5%、次いで「生活費や経済的なこと」が26.2%、「災害(地震・火災・風水害など)にあうこと」が25.6%となっている。一方で「心配ごとや悩みごとはない」の割合は10.3%となっている。

性別でみると、「災害(地震・火災・風水害など)にあうこと」の割合は、男性20.4%、女性28.8%で、女性の方が8.4ポイント高くなっており、「生活費や経済的なこと」の割合は、男性33.3%、女性21.7%で、男性の方が11.6ポイント高くなっている。

動作能力類型別にみると、「自分の健康・病気」の割合は、比較的重い障害のある高齢者は76.0%、軽い障害のある高齢者は64.7%となっている。(表13-12)

表13-12 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕

－性・年齢階級、動作能力類型別、全数との比較

		総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病気	家族や親族との人間関係	相談したり、頼れる人がなくて、ひとりきりであること	地域の人たちとの関係	生活費や経済的なこと	年金・介護・医療など社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	詐欺などの消費者被害にあうこと	犯罪に巻き込まれること	災害(地震・火災・風水害など)にあうこと	将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと	将来、自分の死後の配偶者や子供の将来	墓の管理	その他	心配ごとや悩みごとはない	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	58.5	13.6	9.2	7.8	2.2	26.2	22.3	19.3	7.4	9.4	12.8	9.1	25.6	2.2	7.1	11.6	1.9	10.3	9.2
性・年齢階級別	男	100.0 (387)	62.8	13.7	10.1	12.7	2.6	33.3	28.7	22.0	11.9	10.1	10.9	7.8	20.4	3.1	8.0	15.2	2.6	7.5	6.2
	65～74歳	100.0 (201)	62.2	13.9	9.5	10.9	4.5	36.3	33.8	24.4	16.4	14.4	9.5	9.0	22.9	2.0	8.5	14.4	3.0	6.0	3.0
	75歳以上	100.0 (186)	63.4	13.4	10.8	14.5	0.5	30.1	23.1	19.4	7.0	5.4	12.4	6.5	17.7	4.3	7.5	16.1	2.2	9.1	9.7
	女	100.0 (617)	55.8	13.6	8.6	4.7	1.9	21.7	18.3	17.7	4.5	8.9	14.1	9.9	28.8	1.6	6.5	9.2	1.5	12.0	11.0
	65～74歳	100.0 (196)	55.6	14.3	12.2	8.2	2.6	31.1	24.0	26.0	10.2	10.7	12.2	12.8	31.1	1.0	6.1	7.7	2.6	15.3	4.1
	75歳以上	100.0 (421)	55.8	13.3	6.9	3.1	1.7	17.3	15.7	13.8	1.9	8.1	15.0	8.6	27.8	1.9	6.7	10.0	1.0	10.5	14.3
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (73)	32.9	8.2	6.8	1.4	1.4	5.5	8.2	2.7	－	5.5	6.8	6.8	8.2	－	4.1	6.8	－	6.8	58.9
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (125)	76.0	15.2	12.8	14.4	4.0	29.6	23.2	27.2	7.2	14.4	16.0	16.0	31.2	1.6	12.8	12.8	2.4	4.0	6.4
	軽い障害のある高齢者	100.0 (303)	64.7	17.2	11.2	8.3	2.0	28.7	26.7	20.5	10.9	7.6	14.2	7.9	26.7	2.3	7.9	11.6	1.7	8.9	5.3
	障害のない高齢者	100.0 (392)	52.3	13.3	6.4	6.1	2.3	26.5	20.4	20.7	6.6	11.5	10.7	8.2	26.3	2.3	4.3	12.8	1.8	14.0	2.6
全数		100.0 (3,449)	53.3	37.7	9.6	3.2	1.7	22.3	21.7	13.3	6.8	11.2	10.4	7.4	24.6	15.5	17.9	11.2	1.0	10.4	10.3

(5) 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別、全数との比較

心配ごとや悩みごとを「相談したりする人はいない」の割合は 11.8%で、全数より高い

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）の心配ごとや悩みごとの相談相手をみると、「友人・知人」が 42.4%で最も高く、次いで「世帯員以外の親族」が 37.3%となっている。

全数と比較すると、「世帯員以外の親族」が 9.3 ポイント、「友人・知人」は 9.1 ポイントそれぞれ高くなっている。また「相談する人はいない」は 11.8%で、5.1 ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、「友人・知人」の割合は、男性の前期高齢者（65～74 歳）が 39.3%、女性の前期高齢者が 63.3%で、男女ともに後期高齢者（75 歳以上）に比べて高くなっている。（表 13-13）

表 13-13 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別、全数との比較

		総 数	1 世 帯 員※	2 世 帯 員 以 外 の 親 族	3 友 人・ 知 人	4 賃 貸 住 宅 の 賃 主 や 集 合 住 宅 の 管 理 人	5 地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー	6 地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー 以 外 の 行 政 機 関 の 相 談 窓 口	7 民 生 委 員	8 ホ ー ム ヘル パー な ど の 介 護 職 員・ ケア マネ ジャー	9 医 師・ 看 護 師 な ど の 医 療 従 事 者	10 5 以 外 の 専 門 家 （ 弁 護 士 、 税 理 士 、 司 法 書 士 な ど ）	11 そ の 他	12 相 談 す る 人 は い な い	無 回 答
ひとり暮らし高齢者		100.0 (1,004)	－	37.3	42.4	1.1	5.0	1.9	2.8	4.5	10.9	4.4	2.8	11.8	15.1
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (387)	－	28.7	33.9	1.6	4.9	2.6	3.4	4.1	11.9	3.4	2.6	22.7	11.6
	65～74歳	100.0 (201)	－	27.4	39.3	1.0	3.5	2.5	2.0	3.0	11.9	4.0	1.0	24.4	8.5
	75歳以上	100.0 (186)	－	30.1	28.0	2.2	6.5	2.7	4.8	5.4	11.8	2.7	4.3	21.0	15.1
	女	100.0 (617)	－	42.6	47.8	0.8	5.0	1.5	2.4	4.7	10.2	5.0	2.9	4.9	17.3
	65～74歳	100.0 (196)	－	43.4	63.3	1.0	2.6	1.0	2.0	1.0	5.1	5.6	1.5	5.6	7.1
	75歳以上	100.0 (421)	－	42.3	40.6	0.7	6.2	1.7	2.6	6.4	12.6	4.8	3.6	4.5	22.1
全数		100.0 (3,449)	48.7	28.0	33.3	0.5	4.6	1.4	1.6	3.6	9.8	4.8	1.7	6.7	12.2

（注）※はひとりぐらし高齢者のため、世帯員はいない。

(6) 1年間に行った活動の状況〔複数回答〕一性、年齢階級別、全数との比較

「この1年間に活動した」男性の割合は、全数と比較して低い

ひとりぐらし高齢者（1,004人）がこの1年間に行った活動の状況をみると、「この1年間に活動した」の割合は、43.5%となっている。性別でみると、男性が38.2%で、全数の男性（44.0%）と比較すると、5.8ポイント低くなっている。（表13-14）

表13-14 1年間に行った活動の状況〔複数回答〕一性、年齢階級別、全数との比較

		総数	この1年間に活動した	趣味・学習・スポーツ活動	NPO団体などの役員・事務局活動	自治会、町内会、老人クラブ、祭りの世話役など）を支援する活動	地域行事（地域の催し物の運営、祭りの世話役など）を支援する活動	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	子供の登校の見守りや学習の支援	青少年の健全な成長・非行防止のための活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動	その他	活動はしていない	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	43.5	37.2	11.3	8.0	6.4	2.5	3.2	2.9	1.0	1.2	0.8	2.3	0.9	0.5	0.7	40.1	16.3	
性別	男	100.0 (387)	38.2	32.0	8.3	5.9	4.1	2.6	2.8	1.3	0.5	0.8	0.8	—	0.5	0.5	43.9	17.8		
	女	100.0 (617)	46.8	40.4	13.1	9.2	7.8	2.4	3.4	3.9	1.3	1.5	0.8	3.2	1.5	0.5	0.8	37.8	15.4	
年齢階級別	65～69歳	100.0 (199)	43.7	37.7	10.6	7.0	8.0	4.0	4.0	2.5	1.0	1.0	1.0	3.5	1.0	1.5	1.0	38.2	18.1	
	70～74歳	100.0 (198)	44.4	39.4	9.1	6.6	5.6	2.5	3.0	2.0	1.0	1.0	1.5	2.5	1.5	—	0.5	39.4	16.2	
	75～79歳	100.0 (249)	43.8	38.2	11.6	8.0	5.2	1.6	3.2	3.6	0.8	1.2	0.8	2.4	0.4	0.4	0.4	42.6	13.7	
	80～84歳	100.0 (170)	54.7	46.5	15.9	13.5	8.2	3.5	4.7	2.4	1.2	2.9	—	1.8	0.6	0.6	1.2	31.2	14.1	
	85歳以上	100.0 (188)	31.9	24.5	9.6	5.3	5.3	1.1	1.1	3.7	1.1	—	0.5	1.1	1.1	—	0.5	47.9	20.2	
全数		100.0 (3,449)	44.9	38.2	12.9	9.0	7.1	3.0	4.1	2.5	2.0	2.1	1.1	2.0	1.3	0.5	0.8	39.5	15.5	
性別	男	100.0 (1,708)	44.0	37.1	12.8	9.3	7.2	3.9	5.3	1.8	2.0	2.5	1.6	1.3	0.8	0.8	0.8	41.2	14.8	
	女	100.0 (1,741)	45.8	39.4	12.9	8.7	7.0	2.0	2.9	3.2	2.0	1.8	0.6	2.7	1.8	0.3	0.9	37.9	16.3	

(7) 今後の活動意向〔複数回答〕一性、年齢階級別、全数との比較

ひとりぐらし高齢者（1,004人）の今後の活動意向をみると、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が19.3%で最も高くなっている。（表13-15）

表13-15 今後の活動意向〔複数回答〕一性、年齢階級別、全数との比較

		総数	今後参加してみたい （活動し続けたい）活動がある	趣味・学習・スポーツ活動	NPO団体などの役員・事務局活動	地域行事（地域の催し物の運営、祭りの世話役など）を支援する活動	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	ひとり暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	子供の登校の見守りや学習の支援	青少年の健やかな成長・非行防止のための活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動	その他	今後参加したい（活動し続けたい）活動はない	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	29.4	19.3	5.1	5.1	5.7	4.0	4.6	6.4	4.4	4.3	3.1	4.2	3.7	3.4	0.5	20.5	50.1
性別	男	100.0 (387)	30.5	18.3	5.4	5.9	6.5	4.9	7.0	6.2	6.7	7.5	4.7	5.7	6.2	4.9	0.3	24.8	44.7
	女	100.0 (617)	28.7	19.9	4.9	4.5	5.2	3.4	3.1	6.5	2.9	2.3	2.1	3.2	2.1	2.4	0.6	17.8	53.5
年齢階級別	65～69歳	100.0 (199)	38.7	23.6	7.5	7.0	8.0	6.0	7.0	12.1	7.5	8.0	5.0	8.0	7.5	7.0	1.0	21.6	39.7
	70～74歳	100.0 (198)	34.3	26.3	4.5	6.6	5.1	5.1	4.0	5.6	4.5	3.0	2.5	3.5	2.5	1.5	1.0	17.7	48.0
	75～79歳	100.0 (249)	26.5	18.9	3.6	5.2	6.0	2.4	4.4	4.8	3.6	2.4	2.4	2.0	2.0	2.8	—	27.3	46.2
	80～84歳	100.0 (170)	28.2	17.6	5.3	3.5	4.7	3.5	4.1	5.3	5.3	7.1	4.1	5.9	5.3	4.1	—	11.2	60.6
	85歳以上	100.0 (188)	19.1	9.6	4.8	2.7	4.3	3.2	3.2	4.3	1.1	1.6	1.6	2.1	1.6	1.6	0.5	21.8	59.0
全数		100.0 (3,449)	31.3	19.2	5.7	6.0	7.0	5.2	5.5	5.7	4.6	5.8	3.5	3.9	4.7	3.9	0.4	19.4	49.3
性別	男	100.0 (1,708)	30.7	16.8	6.3	7.3	7.1	6.5	6.9	5.3	5.4	8.1	4.6	4.4	5.4	4.9	0.5	22.1	47.1
	女	100.0 (1,741)	31.9	21.5	5.1	4.8	7.0	3.8	4.0	6.0	3.9	3.6	2.5	3.4	4.0	3.0	0.3	16.7	51.4

8 就業・経済

(1) 現在の仕事の有無一性、年齢階級別、全数との比較

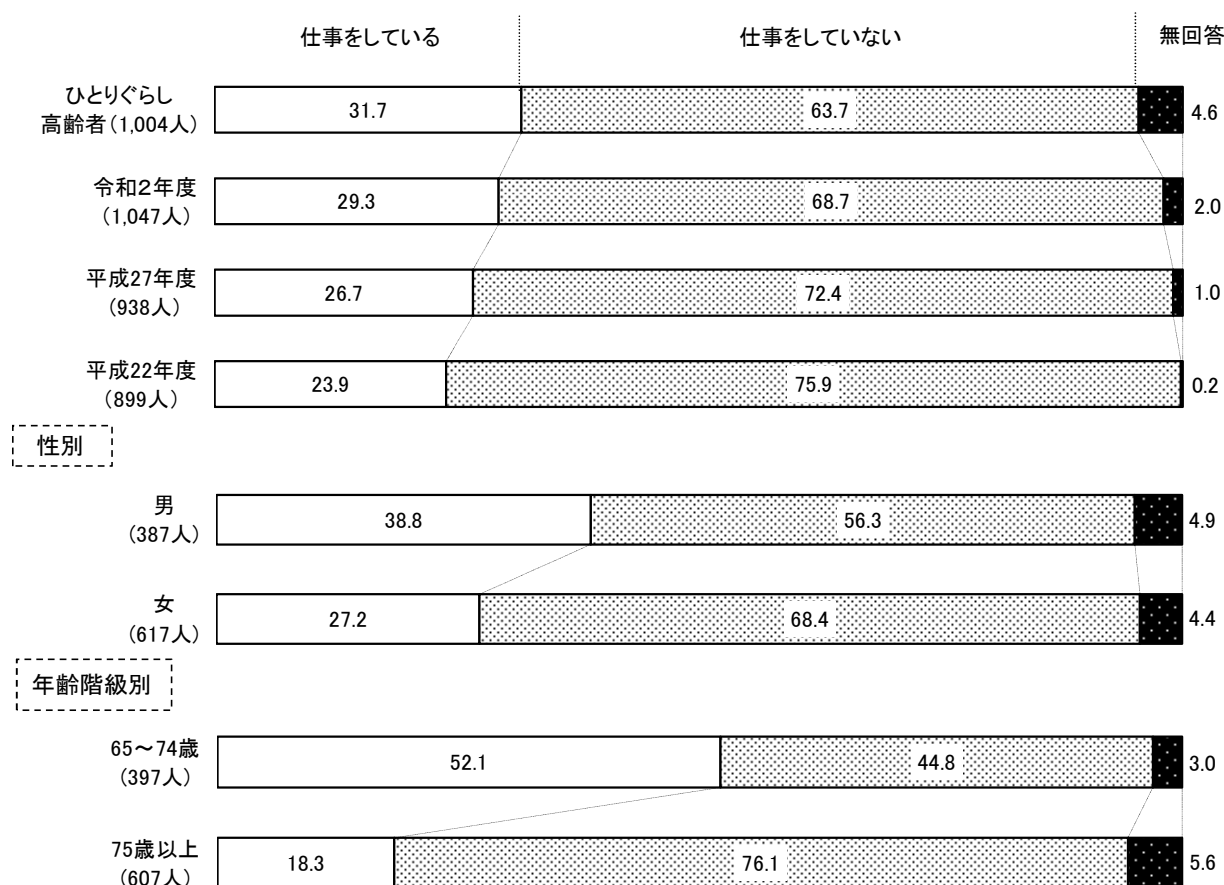
平成 22 年度調査と比べて「仕事をしている」割合が 7.8 ポイント増加

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）の現在の仕事の有無をみると、「仕事をしている」割合は 31.7%、「仕事をしていない」は 63.7%となっている。「仕事をしている」割合は、平成 22 年度調査（23.9%）と比べると、7.8 ポイント高くなっている。

性別でみると、「仕事をしている」割合は、男性 38.8%、女性 27.2%で、男性の方が 11.6 ポイント高くなっている。

年齢階級でみると、「仕事をしている」割合は、65～74 歳では 52.1%となっている。（図 13-13）

図 13-13 現在の仕事の有無一性、年齢階級別、全数との比較



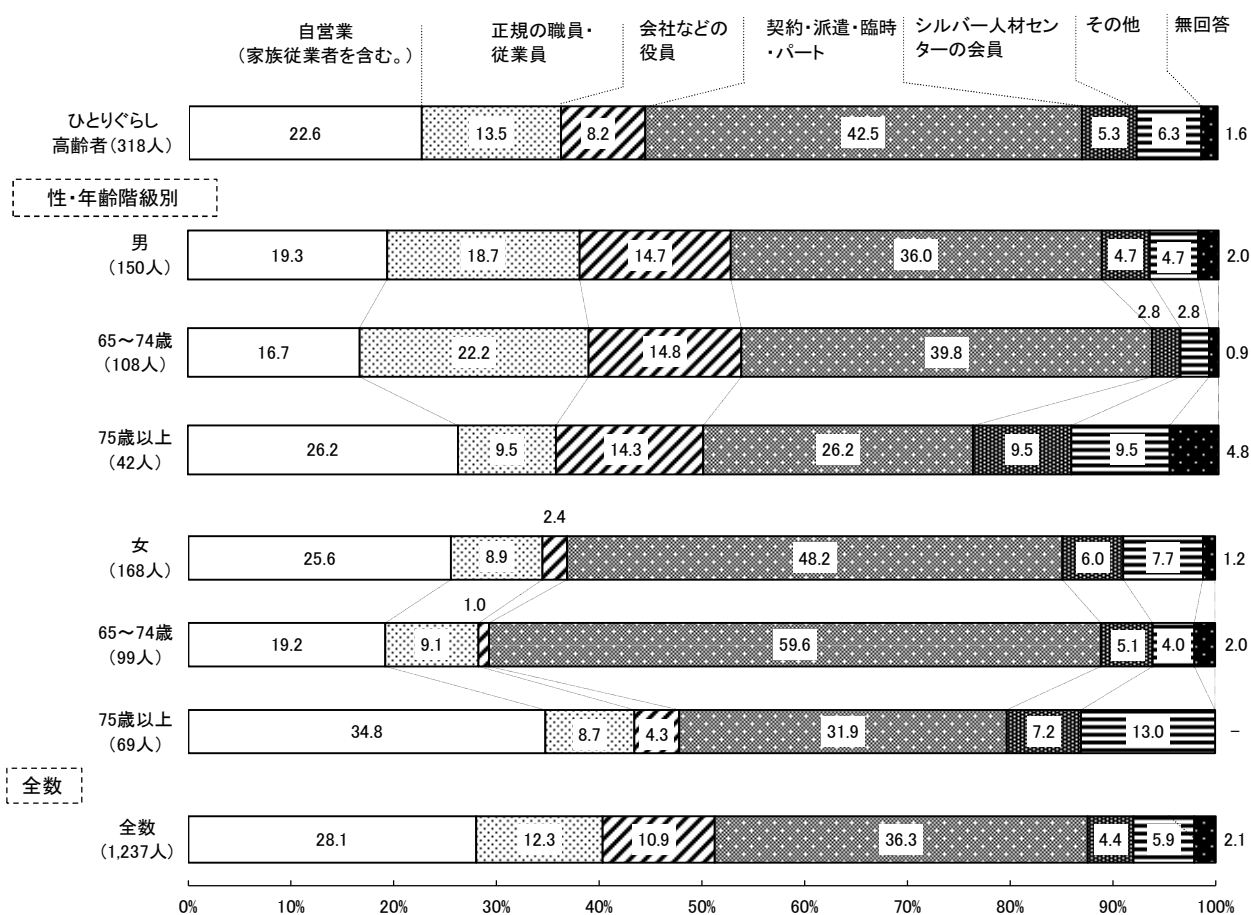
(2) 現在の仕事の就労形態－性・年齢階級別、全数との比較

全数と比べて、現在の仕事は「契約・派遣・臨時・パート」の割合が高い

ひとりぐらし高齢者（1,004人）で収入のある仕事をしている人（318人）の仕事（複数している場合は、収入の最も多いもの）の就労形態をみると、「契約・派遣・臨時・パート」が42.5%で最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む。）」が22.6%、「正規の職員・従業員」が13.5%となっている。「契約・派遣・臨時・パート」の割合は、全数（36.3%）と比べて、6.2ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、「契約・派遣・臨時・パート」の割合は、女性の前期高齢者（65～74歳）が59.6%で最も高くなっている。（図13-14）

図13-14 現在の仕事の就労形態－性・年齢階級別、全数との比較



(3) 収入の種類〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

全数と比べて、収入は「生活保護」の割合が高く、4.8%

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）の令和6年（2024 年）中の収入の種類をみると、「公的な年金・恩給」が73.7%で最も高くなっている。

また、「生活保護」の割合は4.8%で、全数（1.7%）と比べると3.1ポイント高くなっている。（表 13-16）

表 13-16 収入の種類〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

		総 数	公 的 な 年 金 ・ 恩 給	個 人 的 な 年 金 な ど （ 企 業 年 金 、 ）	仕 事 に よ る 収 入	家 賃 ・ 地 代 ・ 配 当 金	仕 送 り	保 険 の （ 傷 病 手 当 金 、 労 災 ）	手 当 （ 傷 病 手 当 金 、 労 災 ）	生 活 保 護	そ の 他	収 入 は な い	無 回 答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1004)	73.7	23.5	28.2	13.2	0.7	0.3		4.8	1.1	2.1	4.6
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (387)	70.8	27.4	34.9	13.7	0.3	0.3		8.0	0.5	1.8	4.9
	65～69歳	100.0 (107)	64.5	22.4	55.1	15.9	－	－		9.3	0.9	1.9	0.9
	70～74歳	100.0 (94)	74.5	30.9	41.5	8.5	－	1.1		5.3	－	1.1	3.2
	75～79歳	100.0 (90)	71.1	23.3	25.6	16.7	－	－		6.7	1.1	4.4	7.8
	80～84歳	100.0 (51)	74.5	29.4	21.6	13.7	2.0	－		13.7	－	－	3.9
	85歳以上	100.0 (45)	73.3	37.8	6.7	13.3	－	－		6.7	－	－	13.3
	女	100.0 (617)	75.5	21.1	24.0	13.0	1.0	0.3		2.8	1.5	2.3	4.4
	65～69歳	100.0 (92)	62.0	27.2	62.0	7.6	1.1	1.1		1.1	1.1	1.1	5.4
	70～74歳	100.0 (104)	73.1	25.0	35.6	10.6	－	－		6.7	－	－	3.8
	75～79歳	100.0 (159)	79.2	26.4	20.8	11.3	0.6	0.6		2.5	3.1	1.9	2.5
	80～84歳	100.0 (119)	78.2	15.1	11.8	24.4	3.4	－		2.5	1.7	3.4	5.0
	85歳以上	100.0 (143)	79.7	13.3	4.9	10.5	－	－		1.4	0.7	4.2	5.6
全数		100.0 (3,449)	75.1	25.6	31.1	16.2	0.3	0.3		1.7	0.7	1.5	4.3

(4) 本人の年収一性・年齢階級、現在の仕事の有無別、全数との比較

収入は、「200 万円以上 250 万円未満」の割合が最も高く、14. 9%

ひとりぐらし高齢者（1,004 人）の令和 6 年（2024 年）中の総収入（税込み）をみると、「200 万円以上 250 万円未満」の割合が 14. 9%で最も高く、次いで「100 万円以上 150 万円未満」及び「150 万円以上 200 万円未満」が 14. 8%となっている。

現在の仕事の有無別でみると、仕事をしている人は「500 万円以上」の割合が 17. 9%で最も高く、仕事をしていない人は「100 万円以上 150 万円未満」の割合が 18. 1%で最も高くなっている。（表 13-17）

表 13-17 本人の年収一性・年齢階級、現在の仕事の有無別、全数との比較

		総 数	収 入 が あ る	50 万 円 未 満	50 万 円 以 上 100 万 円 未 満	100 万 円 以 上 150 万 円 未 満	150 万 円 以 上 200 万 円 未 満	200 万 円 以 上 250 万 円 未 満	250 万 円 以 上 300 万 円 未 満	300 万 円 以 上 500 万 円 未 満	500 万 円 以 上 無 回 答	収 入 は な い	収 入 の 有 無 不 明		
ひとりぐらし高齢者		100.0 (1,004)	93.4	4.0	13.6	14.8	14.8	14.9	9.3	10.8	7.5	3.7	2.1	4.5	
性・年 齢 階 級 別	男	100.0 (387)	93.3	2.3	8.3	12.1	13.7	18.3	10.1	15.8	10.1	2.6	1.8	4.9	
		65～69歳	100.0 (107)	97.2	2.8	9.3	13.1	14.0	10.3	9.3	15.9	19.6	2.8	1.9	0.9
		70～74歳	100.0 (94)	95.7	1.1	7.4	10.6	16.0	21.3	10.6	16.0	11.7	1.1	1.1	3.2
		75～79歳	100.0 (90)	87.8	3.3	5.6	14.4	16.7	22.2	8.9	10.0	5.6	1.1	4.4	7.8
		80～84歳	100.0 (51)	96.1	2.0	11.8	7.8	11.8	21.6	13.7	19.6	2.0	5.9	－	3.9
		85歳以上	100.0 (45)	86.7	2.2	8.9	13.3	4.4	20.0	8.9	22.2	2.2	4.4	－	13.3
	女	100.0 (617)	93.5	5.0	17.0	16.5	15.6	12.8	8.8	7.6	5.8	4.4	2.3	4.2	
		65～69歳	100.0 (92)	93.5	3.3	10.9	16.3	12.0	12.0	15.2	14.1	8.7	1.1	1.1	5.4
		70～74歳	100.0 (104)	96.2	9.6	17.3	16.3	11.5	13.5	10.6	7.7	4.8	4.8	－	3.8
		75～79歳	100.0 (159)	96.2	5.0	17.0	21.4	19.5	8.8	6.3	6.3	7.5	4.4	1.9	1.9
		80～84歳	100.0 (119)	91.6	2.5	18.5	13.4	16.8	14.3	6.7	4.2	6.7	8.4	3.4	5.0
		85歳以上	100.0 (143)	90.2	4.9	19.6	14.0	15.4	16.1	7.7	7.7	2.1	2.8	4.2	5.6
有 仕 現 無 事 在 別 の の	仕事をしている	100.0 (318)	99.7	3.5	8.2	9.1	13.2	14.2	14.2	17.0	17.9	2.5	－	0.3	
	仕事をしていない	100.0 (640)	95.0	4.5	16.9	18.1	16.7	16.4	7.5	8.4	2.5	3.9	3.3	1.7	
全数		100.0 (3,449)	94.3	4.0	15.0	12.8	12.1	12.4	9.9	13.7	11.2	3.1	1.5	4.1	

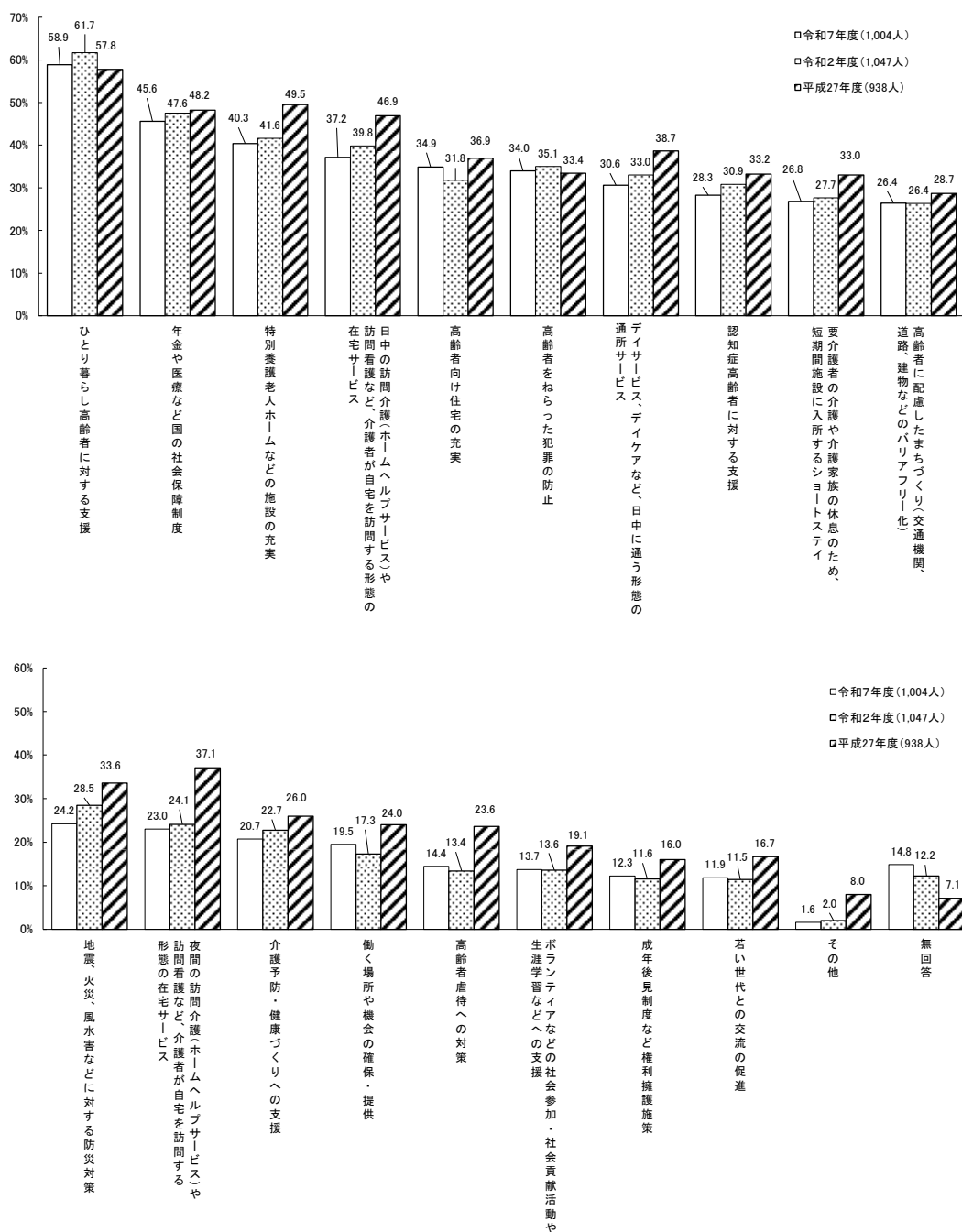
9 高齢者に対して必要な行政の施策や支援〔複数回答〕

高齢者に対して必要な行政の施策や支援は、「ひとり暮らし高齢者に対する支援」の割合が最も高く、58.9%

ひとり暮らし高齢者(1,004人)が大切だと思う高齢者に対する行政の施策や支援は、「ひとり暮らし高齢者に対する支援」が58.9%で最も高く、次いで「年金や医療など国の社会保障制度」が45.6%、「特別養護老人ホームなどの施設の充実」が40.3%となっている。

(図 13-15)

図 13-15 高齢者に対して必要な行政の施策や支援〔複数回答〕－過去調査との比較



第14章 高齢者夫婦のみの世帯の生活実態

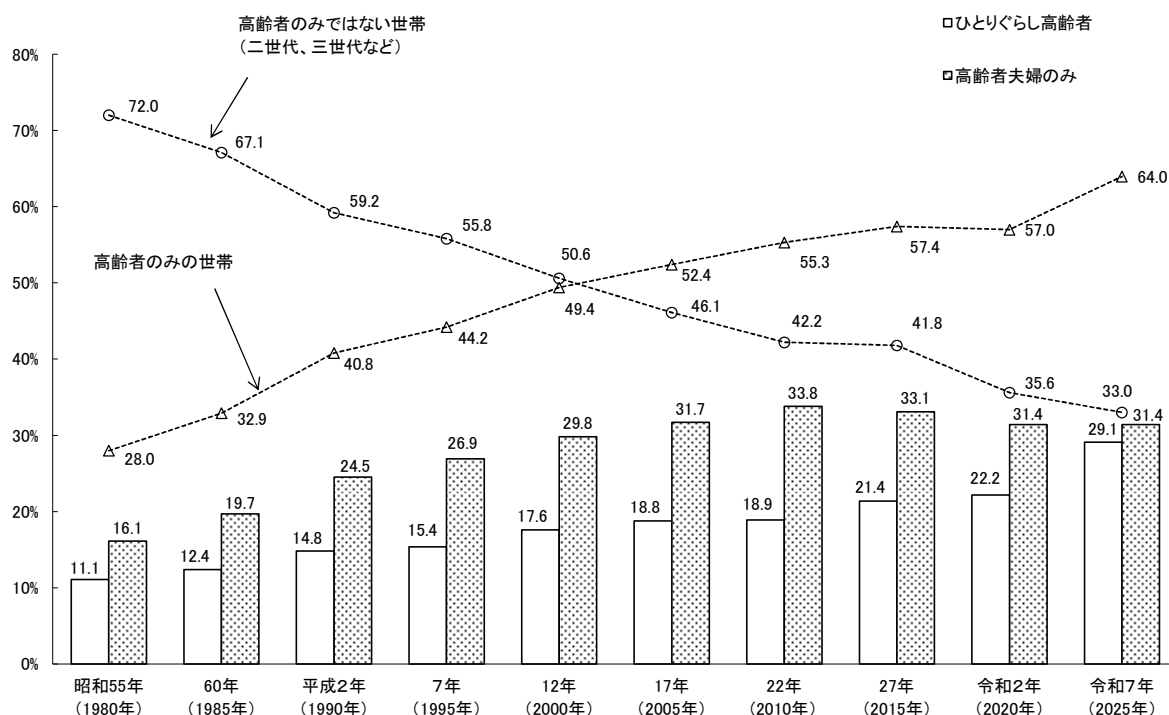
本章では、対象者本人及び配偶者とも、65歳以上の夫婦のみによって構成されている「高齢者夫婦のみの世帯」の人（1,083人）の生活実態を、1世帯の概況、2家族、3健康、4介護保険制度、5住まい、6デジタルの利用、7コミュニケーション、8就業・経済、9高齢者に対する必要な施策や支援の9つの側面から概観する。

1 高齢者夫婦のみの世帯の概況

（1）「高齢者夫婦のみ」及び「ひとりぐらし高齢者」の割合の推移

「高齢者夫婦のみの世帯」の割合は、調査を開始した昭和55年から一貫して増加し続けていたが、平成27年度調査以降減少している。なお、昭和55年の16.1%と比較すると約2倍に増えている。（図14-1）

図14-1 「高齢者夫婦のみ」及び「ひとりぐらし高齢者」の割合の推移



(2) 年齢階級－性別、全数との比較

75 歳以上の割合は男性 61.2%、女性 48.6%

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,083 人)の年齢階級は、前期高齢者(65～74 歳)が 43.8%、後期高齢者(75 歳以上)が 56.2%となっている。

性別でみると、後期高齢者の割合は男性 61.2%、女性 48.6%で、全数(男性 52.3%、女性 61.6%)と比較すると、男性は 8.9 ポイント高く、女性は 13.0 ポイント低くなっている。(表 14-1)

表 14-1 年齢階級－性別、全数との比較

	総 数	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 ～ 7 9 歳	8 0 ～ 8 4 歳	8 5 歳 以 上	7 5 再 掲 以 上	平 均
高齢者夫婦のみ	100.0 (1,083)	17.8	25.9	30.8	16.4	9.0	56.2	75.9
		43.8						
男	100.0 (659)	13.8	25.0	31.4	19.1	10.6	61.2	76.7
女	100.0 (424)	24.1	27.4	30.0	12.3	6.4	48.6	74.6
全数	100.0 (3,449)	21.4	21.6	25.4	16.0	15.6	57.0	76.5
		43.0						
男	100.0 (1,708)	24.2	23.5	25.6	15.0	11.6	52.3	75.5
女	100.0 (1,741)	18.7	19.8	25.1	16.9	19.6	61.6	77.4

(注) 全数とは、今回調査における高齢者全体(3,449 人)のことをいう(高齢者夫婦のみの世帯も含む。)

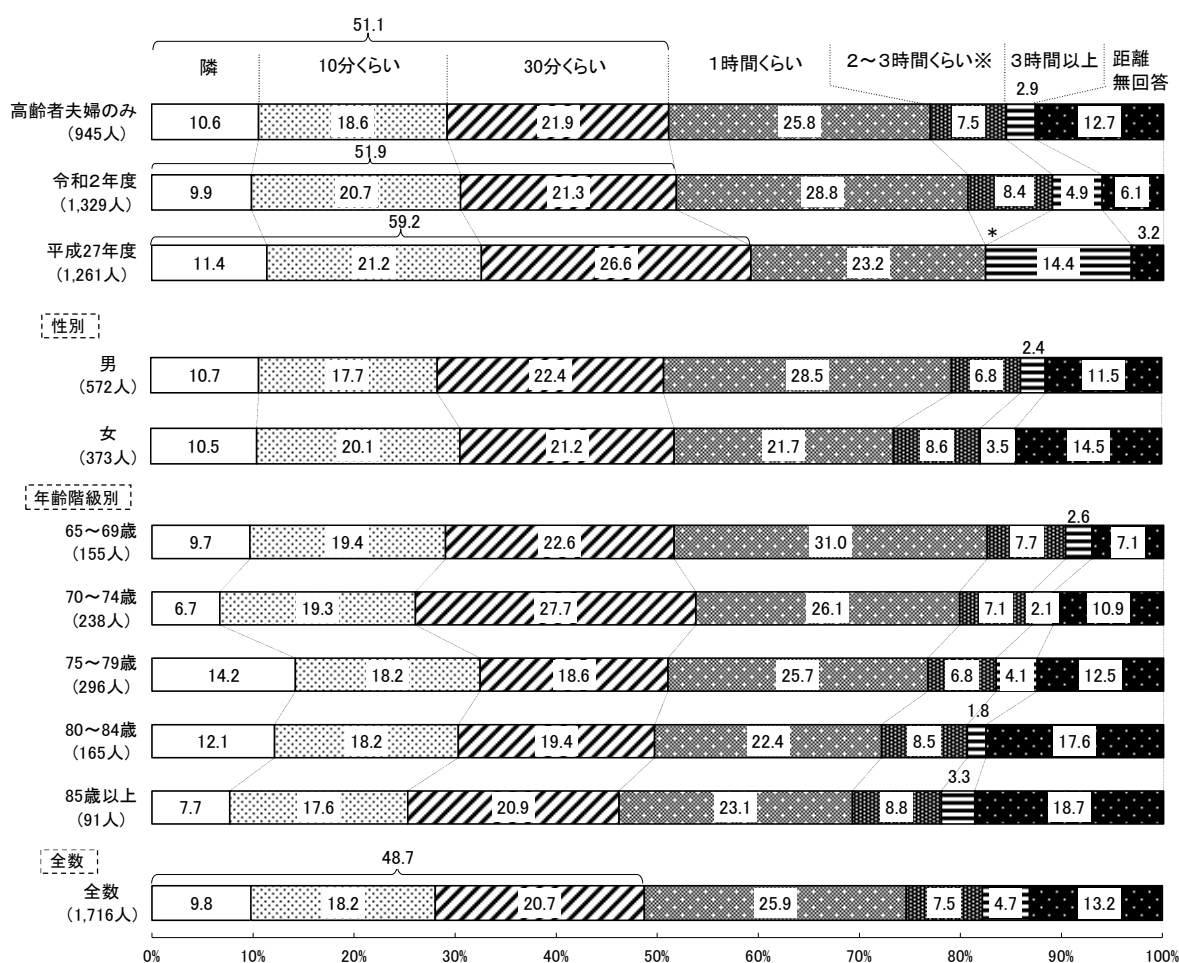
2 家族

(1) 別居している子供との距離一性、年齢階級別

子供との距離が 30 分くらいまで（「隣」、「10 分くらい」、「30 分くらい」の合計）の割合は約 5 割

子供と別居している高齢者夫婦のみの世帯の人（945 人）と、一番近くに住んでいる子供との距離をみると、「隣」、「10 分くらい」、「30 分くらい」を合計した割合は 51.1%となっている。（図 14-2）

図 14-2 別居している子供との距離一性、年齢階級別



(注1) 通常行き来する方法（徒歩、バス、電車など）による時間を聞いた。

(注2) 全数とは、高齢者全体のうち子供と別居している高齢者 1,716 人。

(注3) *は、平成 27 年度以前の調査では選択肢を設けておらず、「2～3 時間くらい」の回答は「3 時間以上」の中に含まれる。

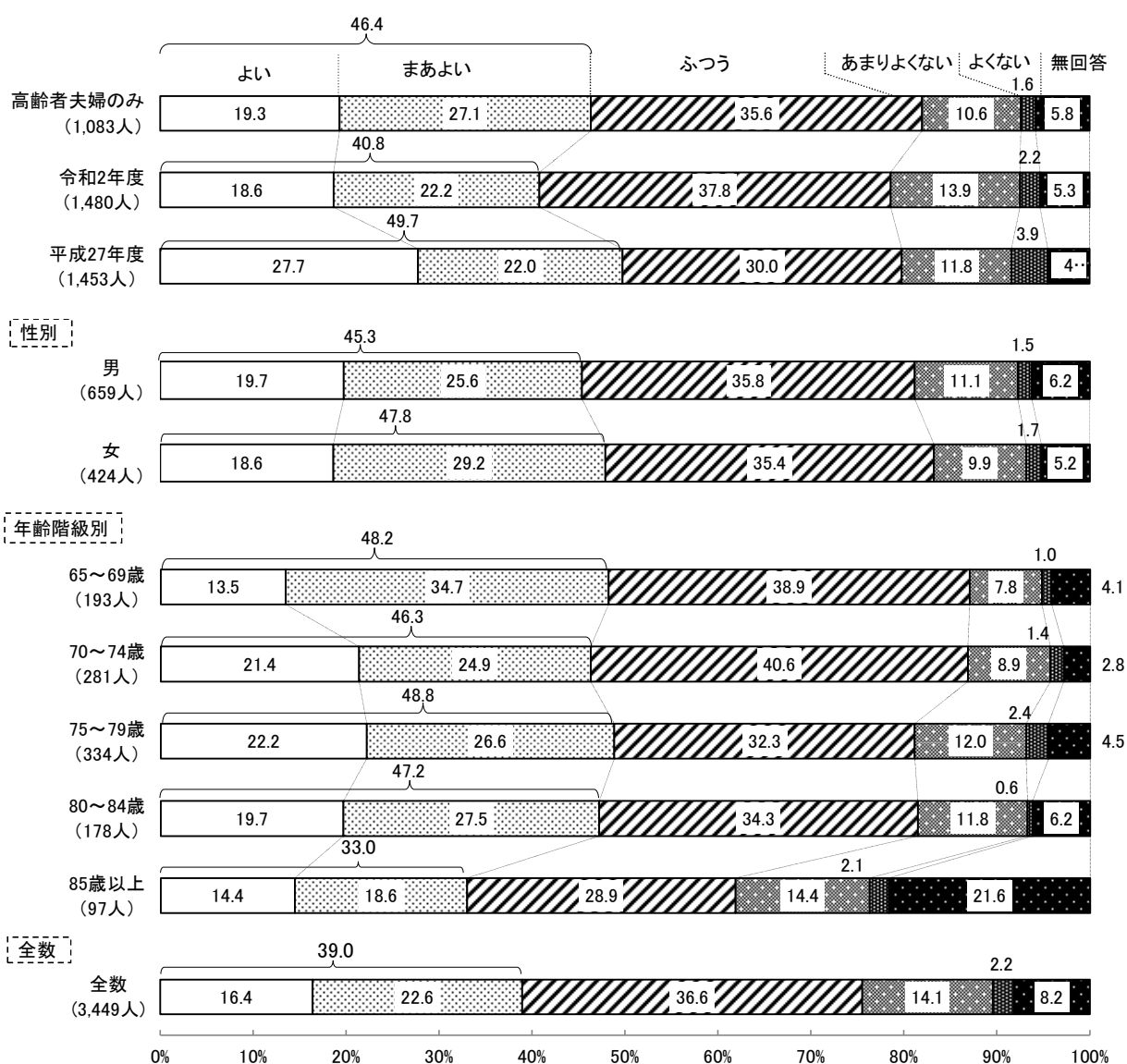
3 健康

(1) 健康状態一性、年齢階級別、全数との比較

健康状態を「よい」と「まあよい」と感じている人の割合は、合わせて4割超

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,083人)に健康状態をどのように感じているか聞いたところ、「ふつう」の割合が35.6%で最も高く、次いで「まあよい」が27.1%となっている。「よい」と「まあよい」を合わせた割合は46.4%となっている。(図14-3)

図14-3 健康状態一性、年齢階級別、全数との比較



4 介護保険制度

(1) 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無－全数、ひとりぐらし高齢者との比較

「認定を申請していない」の割合は 77.2%

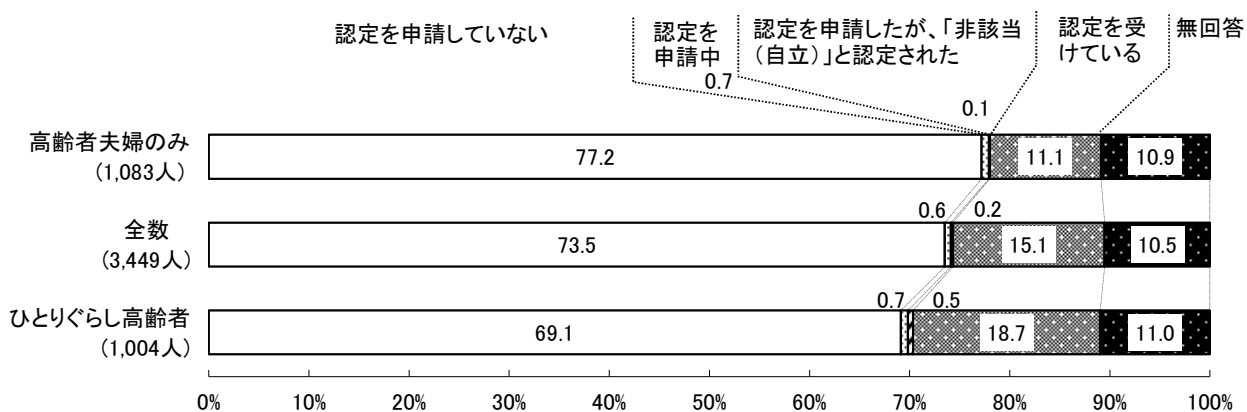
高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083 人）における介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無をみると、「認定を申請していない」の割合は 77.2%、「認定を受けている」割合は 11.1%となっている。

「認定を受けている」割合を全数（15.1%）と比較すると、4.0 ポイント低くなっている。また、ひとりぐらし高齢者（18.7%）と比較すると、7.6 ポイント低くなっている。

（図 14-4）

図 14-4 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

－全数、ひとりぐらし高齢者との比較



(2) 要支援・要介護度一性、年齢階級、動作能力類型別、全数、ひとりぐらし高齢者との比較

「要支援 1」の割合が最も高く、29.2%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083 人）で、要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（120 人）の要支援・要介護度をみると、「要支援 1」の割合が 29.2%で最も高く、次いで「要介護 1」が 16.7%となっている。

性別でみると、男女ともに「要支援 1」の割合が最も高くなっている（男性 32.4%、女性 23.9%）。（表 14-2）

表 14-2 要支援・要介護度

一性、年齢階級、動作能力類型別、全数、ひとりぐらし高齢者との比較

		総 数	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	は要 支 援 か ら な い 要 介 護 度
高齢者夫婦のみ		100.0 (120)	<u>29.2</u>	15.0	<u>16.7</u>	15.0	8.3	4.2	5.0	6.7
性 別	男	100.0 (74)	<u>32.4</u>	12.2	14.9	16.2	9.5	4.1	4.1	6.8
	女	100.0 (46)	<u>23.9</u>	19.6	19.6	13.0	6.5	4.3	6.5	6.5
年 齢 階 級 別	65～74歳	100.0 (18)	16.7	16.7	16.7	5.6	16.7	11.1	5.6	11.1
	75歳以上	100.0 (102)	31.4	14.7	16.7	16.7	6.9	2.9	4.9	5.9
動 作 能 力 類 型 別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (49)	10.2	10.2	14.3	26.5	16.3	10.2	10.2	2.0
	比較的重い障害のある 高齢者	100.0 (15)	26.7	20.0	20.0	13.3	—	—	—	20.0
	軽い障害のある高齢者	100.0 (26)	42.3	19.2	23.1	—	3.8	—	—	11.5
	障害のない高齢者	100.0 (13)	69.2	15.4	15.4	—	—	—	—	—
全数		100.0 (522)	21.5	19.2	16.9	13.0	10.3	6.1	6.1	6.9
ひとりぐらし高齢者		100.0 (188)	24.5	24.5	16.0	9.0	7.4	4.3	6.9	7.4

(3) 介護の状況（高齢者夫婦のみの世帯の人が介護を受けている状況）

ア 介護をしている人〔複数回答〕－性別、全数との比較

「配偶者」が介護をしている割合が最も高く、83.7%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）で、要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（120人）のうち、介護を受けている人（86人）を誰が介護しているかについてみると、「配偶者」の割合が83.7%で最も高く、次いで「子供」が24.4%となっている。

全数と比較すると、「配偶者」の割合は56.5ポイント高く、「子供」の割合は28.2ポイント低くなっている。（表14-3）

表 14-3 介護をしている人〔複数回答〕－性別、全数との比較

		総 数	親 族	1 配 偶 者	2 子 供	3 子 供 の 配 偶 者	4 孫 ま た は そ の 配 偶 者	5 兄 弟 姉 妹	6 1 ～ 5 以 外 の 親 族	親 族 以 外	7 ホ ー ム ヘル パー な ど の 介 護 職 員	8 訪 問 看 護 師	9 近 所 の 人 ・ 友 人 ・ 知 人	10 そ の 他
高齢者夫婦のみ		100.0 (86)	89.5	<u>83.7</u>	<u>24.4</u>	3.5	1.2	2.3	－	25.6	17.4	11.6	－	4.7
性 別	男	100.0 (55)	89.1	85.5	14.5	1.8	－	－	－	25.5	16.4	12.7	－	3.6
	女	100.0 (31)	90.3	80.6	41.9	6.5	3.2	6.5	－	25.8	19.4	9.7	－	6.5
全数		100.0 (378)	77.2	<u>27.2</u>	<u>52.6</u>	9.0	4.5	2.6	1.9	49.2	39.4	18.3	0.5	2.9

イ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人－性別、全数との比較

最も長い時間、介護をしている人は「配偶者」の割合が高く、80.2%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）で、要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（120人）のうち、介護を受けている人（86人）を誰が最も長い時間介護しているかについてみると、「配偶者」の割合が80.2%で最も高く、次いで「子供」及び「ホームヘルパーなどの介護職員」が5.8%となっている。

全数と比較すると、「配偶者」の割合は55.6ポイント高く、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合は18.5ポイント低くなっている。（表14-4）

表 14-4 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人－性別、全数との比較

		総 数	親 族	1 配 偶 者	2 子 供	3 子 供 の 配 偶 者	4 孫 ま た は そ の 配 偶 者	5 兄 弟 姉 妹	6 1 と 5 以 外 の 親 族	親 族 以 外	7 ホ ー ム ヘ ル パ ー な ど の 介 護 職 員	8 訪 問 看 護 師	9 近 所 の 人 ・ 友 人 ・ 知 人	10 そ の 他	無 回 答
高齢者夫婦のみ		100.0 (86)	86.0	80.2	5.8	-	-	-	-	11.6	5.8	1.2	-	4.7	2.3
性 別	男	100.0 (55)	89.1	85.5	3.6	-	-	-	-	10.9	5.5	1.8	-	3.6	-
	女	100.0 (31)	80.6	71.0	9.7	-	-	-	-	12.9	6.5	-	-	6.5	6.5
全数		100.0 (378)	66.7	24.6	35.4	3.2	0.8	1.6	1.1	29.9	24.3	2.9	0.3	2.4	3.4

5 住まい

(1) 住まいの種類一性、年齢階級、本人の年収別、全数との比較

現在の住居は、「持家」の割合は8割超

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）が住んでいる住宅の種類を大別すると、「持家」が84.9%、「借家・賃貸住宅など」が11.9%となっている。種類別にみると、「持家（一戸建て）」の割合が61.6%で最も高く、次いで「持家（分譲マンションなど）」が23.4%となっている。（表14-5）

表 14-5 住まいの種類一性、年齢階級、本人の年収別、全数との比較

		総数	持家	持家 （一戸建て）	持家 （分譲マンションなど）	借家・賃貸住宅など	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（賃貸マンション・アパートなど）	都・区市町村の公営賃貸住宅	都市再生機構・地方住宅供給公社などの公的賃貸住宅	社宅などの給与住宅	高齢者向け住宅※	その他	無回答
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,083)	84.9	61.6	23.4	11.9	0.9	6.6	2.1	1.3	0.6	0.3	0.6	2.5
性別	男	100.0 (659)	85.9	62.5	23.4	11.1	1.1	5.9	2.0	1.1	0.8	0.3	0.3	2.7
	女	100.0 (424)	83.5	60.1	23.3	13.2	0.7	7.8	2.4	1.7	0.5	0.2	1.2	2.1
年齢階級別	65～69歳	100.0 (193)	87.6	63.7	23.8	9.8	0.5	8.3	—	1.0	—	—	1.6	1.0
	70～74歳	100.0 (281)	83.6	55.9	27.8	13.9	0.7	7.5	3.6	0.7	1.4	—	0.4	2.1
	75～79歳	100.0 (334)	86.8	63.2	23.7	11.1	0.3	6.6	2.4	0.9	0.6	0.3	—	2.1
	80～84歳	100.0 (178)	84.8	62.9	21.9	11.8	2.2	5.1	1.1	2.8	0.6	—	—	3.4
	85歳以上	100.0 (97)	77.3	66.0	11.3	13.4	2.1	4.1	3.1	2.1	—	2.1	3.1	6.2
本人の年収別	収入がある	100.0 (1,026)	86.7	63.0	23.8	11.8	1.0	6.5	2.1	1.3	0.7	0.2	0.7	0.8
	50万円未満	100.0 (40)	92.5	70.0	22.5	7.5	—	7.5	—	—	—	—	—	—
	50万円以上 100万円未満	100.0 (176)	84.1	58.5	25.6	13.6	2.3	7.4	2.3	1.7	—	—	1.7	0.6
	100万円以上 150万円未満	100.0 (105)	82.9	62.9	20.0	15.2	1.0	7.6	4.8	1.9	—	—	1.9	—
	150万円以上 200万円未満	100.0 (117)	80.3	59.8	20.5	17.1	2.6	6.8	4.3	2.6	—	0.9	—	2.6
	200万円以上 250万円未満	100.0 (120)	87.5	60.8	26.7	11.7	—	4.2	3.3	2.5	0.8	0.8	—	0.8
	250万円以上 300万円未満	100.0 (122)	91.0	65.6	25.4	9.0	1.6	6.6	—	—	0.8	—	—	—
	300万円以上 500万円未満	100.0 (171)	90.6	64.3	26.3	9.4	—	5.8	1.2	0.6	1.8	—	—	—
	500万円以上 700万円未満	100.0 (68)	89.7	67.6	22.1	7.4	—	5.9	—	—	1.5	—	1.5	1.5
	700万円以上 1,000万円未満	100.0 (39)	87.2	64.1	23.1	7.7	—	7.7	—	—	—	—	2.6	2.6
	1,000万円以上	100.0 (39)	97.4	76.9	20.5	2.6	—	2.6	—	—	—	—	—	—
	収入はない	100.0 (12)	75.0	50.0	25.0	25.0	—	16.7	8.3	—	—	—	—	—
全数		100.0 (3,449)	75.2	54.9	20.4	21.1	1.0	13.0	3.4	1.7	0.7	1.4	1.0	2.6

(注) ※は、「高齢者向け住宅」とは、シルバーピア、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなどを指す。

(2) 介護が必要になったときの高齢期の住まい

一性、年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

介護が必要になったとき、「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、男女とも4割を超えている

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,083人)に介護が必要になったときに住みたい場所についてみると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が48.7%で最も高く、次いで「介護保険で入所できる施設(特別養護老人ホームなど)に入所したい」が13.4%となっている。

性別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、男性52.8%、女性42.2%となっている。(表14-6)

表14-6 介護が必要になったときの高齢期の住まい

一性、年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

	総数	1 現在の住宅に住み続けたい	2 子供や親族の家族に移りまたはその近くの	3 有(サ)料老人ホーム付き高齢者向け住宅、有料老人ホームなどへ入居したい	4 に(介)入所した養護老人ホームなど施設	5 育(2)った自然環境の良いいところ、生まれたい	6 その他	7 わからない	無回答
高齢者夫婦のみ	100.0 (1,083)	48.7	1.4	12.9	13.4	1.2	0.6	12.5	9.3
性別									
男	100.0 (659)	52.8	1.4	13.7	11.4	1.2	0.3	10.2	9.1
女	100.0 (424)	42.2	1.4	11.8	16.5	1.2	1.2	16.0	9.7
年齢階級別									
65～69歳	100.0 (193)	39.4	2.1	13.0	18.1	1.6	-	19.7	6.2
70～74歳	100.0 (281)	47.0	1.8	15.7	11.0	1.4	1.4	14.2	7.5
75～79歳	100.0 (334)	53.6	1.2	12.0	12.6	1.5	0.3	10.2	8.7
80～84歳	100.0 (178)	55.1	0.6	12.4	14.0	-	0.6	9.6	7.9
85歳以上	100.0 (97)	43.3	1.0	9.3	12.4	1.0	1.0	6.2	25.8
住宅の種類別									
持家(一戸建て)	100.0 (667)	53.1	1.0	12.9	12.0	0.6	0.4	11.8	8.1
持家(分譲マンションなど)	100.0 (253)	48.6	0.4	17.0	13.4	0.8	1.2	11.9	6.7
民間賃貸住宅(賃貸マンション・アパートなど)	100.0 (72)	25.0	5.6	11.1	18.1	6.9	1.4	27.8	4.2
都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (23)	52.2	4.3	-	21.7	-	-	8.7	13.0
都市再生機構・地方住宅供給公社などの公的賃貸住宅	100.0 (14)	42.9	7.1	7.1	35.7	-	-	-	7.1
全数	100.0 (3,449)	43.4	1.8	12.1	15.4	1.5	0.8	13.8	11.2
性別									
男	100.0 (1,708)	48.5	1.6	12.5	12.8	2.0	0.5	13.2	8.9
女	100.0 (1,741)	38.4	2.0	11.7	18.0	1.0	1.1	14.3	13.5

(注) 住宅の種類別のうち、「民間賃貸住宅(一戸建て)」、「社宅などの給与住宅」、「高齢者向け住宅(シルバーピア、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなど)」、「その他」については、母集団がそれぞれ10人、7人、3人、7人のため表側から省略した。

6 デジタルの利用

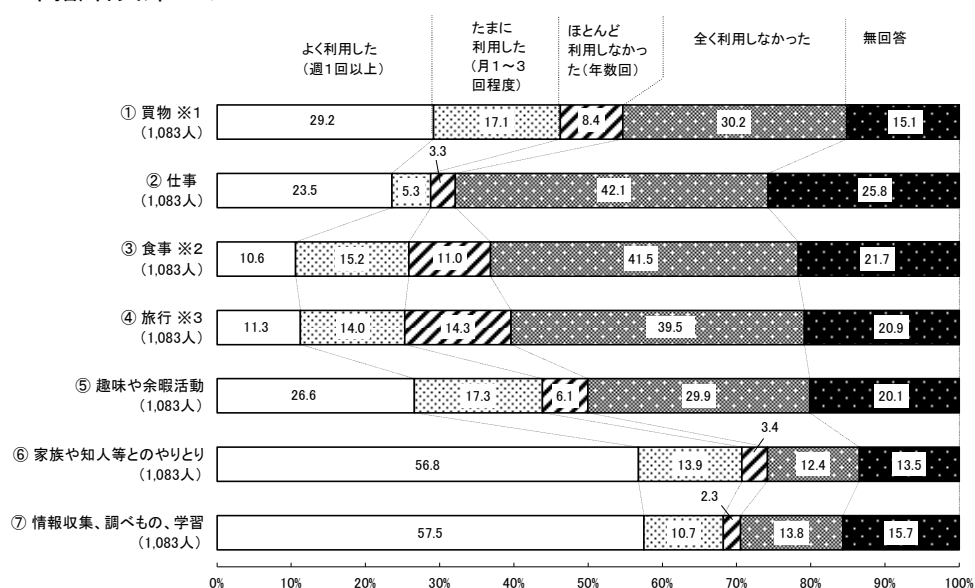
(1) 日常生活における各活動でのデジタルの利用状況－全数との比較

日常生活でデジタルを「よく利用した（週1回以上）」の割合は、「情報収集、調べもの、学習」が最も高く、57.5%

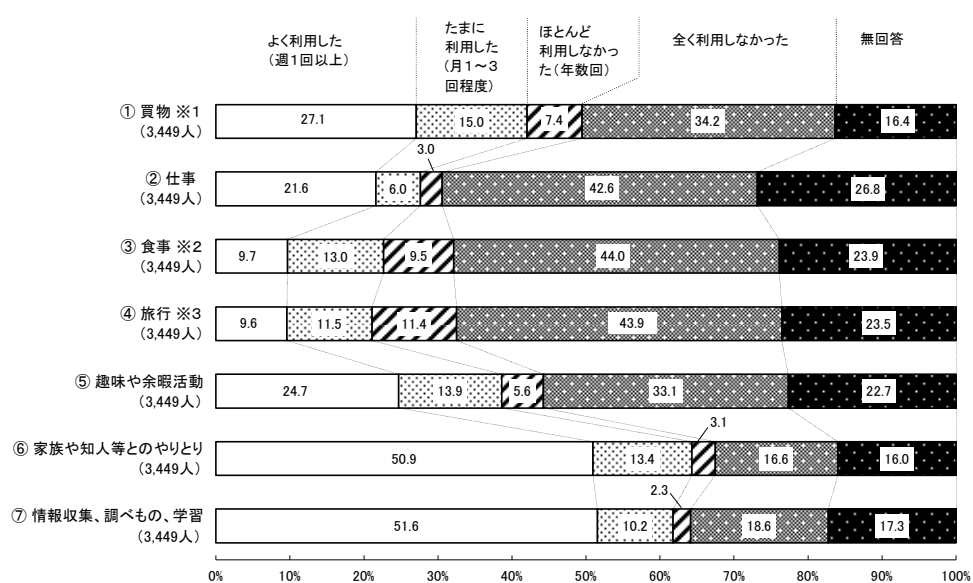
高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）の日常生活における以下の①～⑦の各活動でのデジタルの利用状況を聞いたところ、よく利用した（週1回以上）の割合は、「⑦情報収集、調べもの、学習」が57.5%で最も高く、次いで「⑥家族や知人等とのやりとり」が56.8%となっている。（図14-5）

図14-5 日常生活における各活動でのデジタルの利用状況－全数との比較

《高齢者夫婦のみ》



《全数》



（注1）※1の「買物」とは、ネットショッピングの利用や、キャッシュレス決済などを指す。

（注2）※2の「食事」とは、レストランの予約や、配達サービスの利用などを指す。

（注3）※3の「旅行」とは、交通機関の予約や、ホテルの予約などを指す。

（２）日常生活における各活動でのデジタルを利用しなかった理由－全数との比較

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）の日常生活における以下の①～⑦の各活動でのデジタルの利用状況において、「ほとんど利用しなかった（年数回）」と「全く利用しなかった」と回答した人に理由を聞いた。

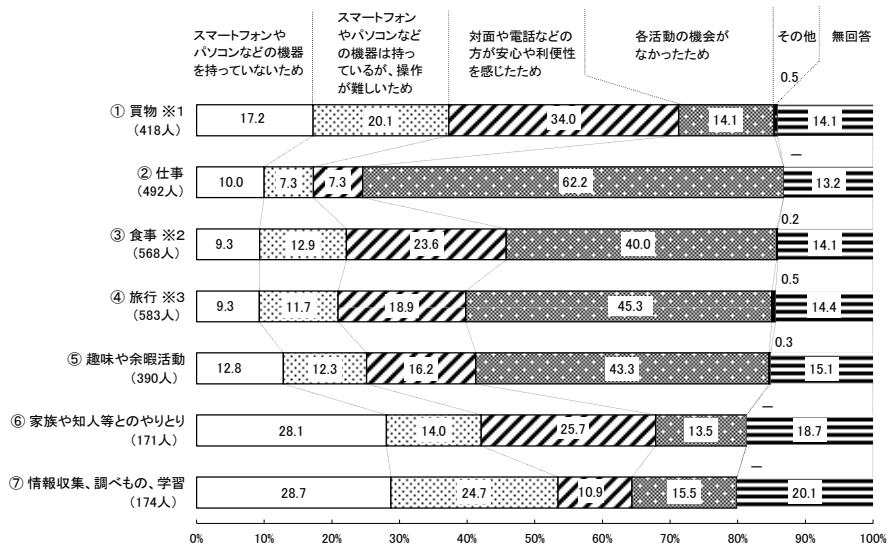
「②仕事」、「③食事」、「④旅行」及び「⑤趣味や余暇活動」ではいずれも「各活動の機会がなかったため」の割合が最も高く（40.0%～62.2%）になっている。

また、「⑥家族や知人等とのやりとり」及び「⑦情報収集、調べもの、学習」では「スマートフォンやパソコンなどの機器を持っていないため」が最も高くなっている（28.1%、28.7%）。

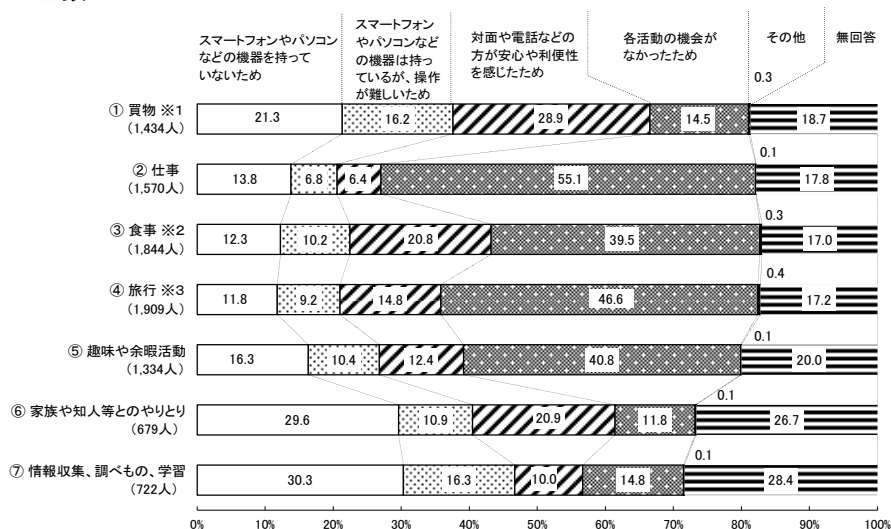
さらに、「①買い物」は「対面や電話などの方が安心や利便性を感じたため」が34.0%と最も高くなっている。（図14-6）

図14-6 日常生活における各活動でのデジタルを利用しなかった理由－全数との比較

《高齢者夫婦のみ》



《全数》



（注1）※1の「買い物」とは、ネットショッピングの利用や、キャッシュレス決済などを指す。

（注2）※2の「食事」とは、レストランの予約や、配達サービスの利用などを指す。

（注3）※3の「旅行」とは、交通機関の予約や、ホテルの予約などを指す。

7 コミュニケーション

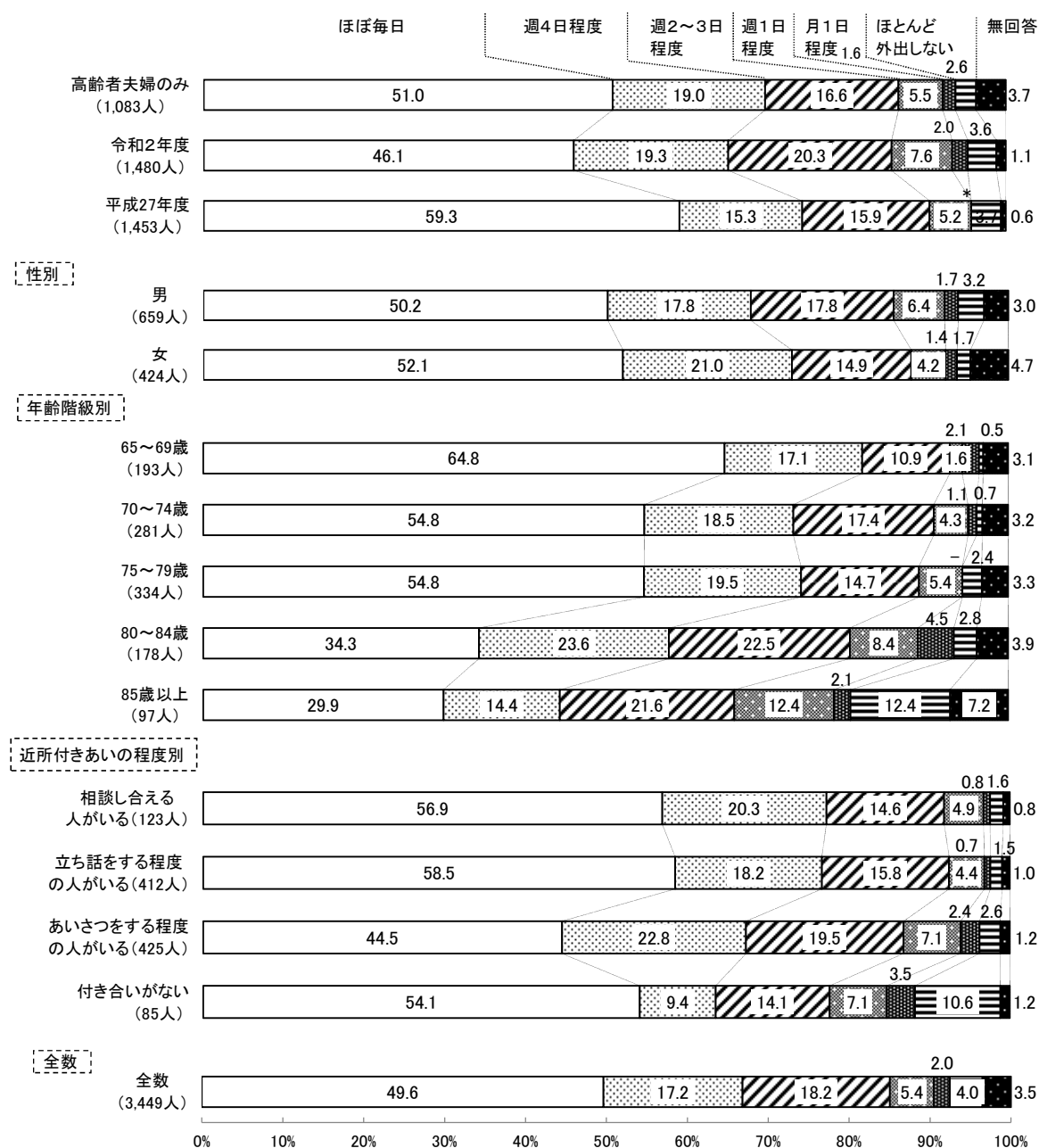
(1) 外出の頻度一性、年齢階級、近所付き合いの程度別、全数との比較

「ほぼ毎日」外出する割合が最も高く、約5割

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,083人)の外出頻度をみると、「ほぼ毎日」の割合が51.0%で最も高く、次いで「週4日程度」が19.0%、「週2～3日程度」が16.6%となっている。

近所付き合いの程度別でみると、付き合いがない人は「ほとんど外出しない」割合が10.6%で、近所付き合いがある人と比べて高い割合になっている。(図14-7)

図14-7 外出の頻度一性、年齢階級、近所付き合いの程度別、全数との比較



(注1) 平成27年度以前の「週〇日程度」の選択肢は、いずれも「週〇回程度」と回数表記であり、1日に2回以上外出する場合は、1回と数えた。

(注2) *は、平成27年度以前は選択肢を設けていなかった。

(2) 生きがいを感じているかー性・年齢階級別、全数との比較

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）が生きがい（喜びや楽しみ）を感じているかをみると、「十分感じている」と「感じている」と「多少感じている」を合わせた割合は、83.1%となっている。

全数（77.2%）と比較すると、「十分感じている」と「感じている」と「多少感じている」を合わせた割合は、5.9ポイント高くなっている。（表14-7）

表 14-7 生きがいを感じているかー性・年齢階級別、全数との比較

		総数	十分感じている	感じている	多少感じている	あまり感じていない	全く感じていない	無回答
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,083)	22.6	34.3	26.2	7.4	1.1	8.4
			83.1					
性・年齢階級別	男	100.0 (659)	22.6	35.1	27.3	6.1	0.9	8.0
			85.0					
	65～74歳	100.0 (256)	25.8	38.3	27.3	3.9	0.4	4.3
	75～84歳	100.0 (333)	21.6	34.8	28.8	6.6	0.9	7.2
	85歳以上	100.0 (70)	15.7	24.3	20.0	11.4	2.9	25.7
	女	100.0 (424)	22.6	33.0	24.5	9.4	1.4	9.0
			80.2					
	65～74歳	100.0 (218)	24.8	33.5	22.5	9.6	0.9	8.7
	75～84歳	100.0 (179)	22.3	34.6	25.7	7.8	2.2	7.3
	85歳以上	100.0 (27)	7.4	18.5	33.3	18.5	—	22.2
全数		100.0 (3,449)	20.8	31.8	24.6	10.6	1.8	10.4
			77.2					
性別	男	100.0 (1,708)	21.2	31.8	25.8	11.2	1.8	8.2
			78.8					
	女	100.0 (1,741)	20.5	31.8	23.3	10.1	1.8	12.5
			75.6					

(3) 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

心配ごとや悩みごとは、「自分の健康・病気」や「配偶者や家族の健康・病気」の割合が高く、それぞれ5割を超えている

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）の心配ごとや悩みごとの内容をみると、「配偶者や家族の健康・病気」の割合が最も高く55.0%、次いで「自分の健康・病気」が50.4%、「将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと」が29.3%となっている。

性別でみると、「配偶者や家族の健康・病気」の割合は、男性52.0%、女性59.7%となっており、「自分の死後の配偶者や子供の将来」の割合は、男性21.1%、女性17.5%となっている。

全数と比較すると、「配偶者や家族の健康・病気」の割合は17.3ポイント高く、「将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと」の割合は、13.8ポイント高くなっている。（表14-8）

表14-8 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

		総 数	自 分 の 健 康 ・ 病 気	配 偶 者 や 家 族 の 健 康 ・ 病 気	家 族 や 親 族 と の 人 間 関 係	相 談 し た り 、 頼 れ る 人 が い な く て 、 ひ と り き り で あ る こ と	地 域 の 人 た ち と の 関 係	生 活 費 や 経 済 的 な こ と	年 金 ・ 介 護 ・ 医 療 な ど 社 会 保 障 給 付 の 水 準	住 宅 に 関 す る こ と	仕 事 に 関 す る こ と	財 産 管 理 や 相 続 の こ と	詐 欺 な ど の 消 費 者 被 害 に あ う こ と	犯 罪 に 巻 き 込 ま れ る こ と	災 害 （ 地 震 ・ 火 災 ・ 風 水 害 な ど ） に あ う こ と	将 来 、 配 偶 者 に 先 立 た れ た 後 の 生 活 の こ と	自 分 の 死 後 の 配 偶 者 や 子 供 の 将 来	墓 の 管 理	そ の 他	心 配 こ と や 悩 み こ と は な い	無 回 答
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,083)	50.4	55.0	8.3	0.8	1.3	17.8	19.6	9.0	4.3	13.0	9.9	6.9	23.3	29.3	19.7	11.6	0.5	11.1	8.0
性・年齢階級別	男	100.0 (659)	50.1	52.0	8.2	0.9	1.4	19.1	20.5	8.2	5.2	13.1	9.1	6.7	21.4	29.3	21.1	14.0	0.3	11.8	7.6
	65～74歳	100.0 (256)	48.0	49.2	10.5	1.2	1.6	20.7	21.5	9.0	8.2	13.7	9.8	10.5	23.0	26.2	21.9	17.6	0.0	12.1	5.1
	75歳以上	100.0 (403)	51.4	53.8	6.7	0.7	1.2	18.1	19.9	7.7	3.2	12.7	8.7	4.2	20.3	31.3	20.6	11.7	0.5	11.7	9.2
	女	100.0 (424)	50.9	59.7	8.5	0.7	1.2	15.8	18.2	10.1	3.1	13.0	11.1	7.3	26.2	29.2	17.5	8.0	0.7	9.9	8.7
	65～74歳	100.0 (218)	50.9	57.8	9.2	0.5	1.8	18.8	22.9	11.0	4.6	16.1	11.5	6.9	24.8	29.4	17.9	9.2	0.5	10.1	7.8
	75歳以上	100.0 (206)	51.0	61.7	7.8	1.0	0.5	12.6	13.1	9.2	1.5	9.7	10.7	7.8	27.7	29.1	17.0	6.8	1.0	9.7	9.7
全数		100.0 (3,449)	53.3	57.7	9.6	3.2	1.7	22.3	21.7	13.3	6.8	11.2	10.4	7.4	24.6	15.5	17.9	11.2	1.0	10.4	10.3

(4) 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

心配ごとや悩みごとの相談相手は、「世帯員」の割合が最も高く、71.7%

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,083人)の心配ごとや悩みごとの相談相手をみると、「世帯員」が71.7%で最も高く、次いで「友人・知人」が30.6%となっている。

全数と比較すると、「世帯員」が23.0ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、「世帯員」は前期高齢者(65～74歳)の男性が76.2%、「友人・知人」は前期高齢者(65～74歳)の女性が47.2%で、それぞれ他の年齢階級と比べて高い割合となっている。(表14-9)

表14-9 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

		総 数	1 世 帯 員	2 世 帯 員 以 外 の 親 族	3 友 人 ・ 知 人	4 管 理 人 賃 貸 住 宅 の 賃 主 や 集 合 住 宅 の	5 地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー	6 行 政 機 関 の 相 談 窓 口 以 外 の	7 民 生 委 員	8 ホ ー ム ヘル パー な ど の 介 護 職 員 ・ ケ ア マ ネ ジャ ー	9 医 師 、 看 護 師 な ど の 医 療 従 事 者	10 5 5 9 以 外 の 専 門 家 (弁 護 士 、 税 理 士 、 司 法 書 士 な ど)	11 そ の 他	12 相 談 し た り す る 人 は い な い	無 回 答
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,083)	<u>71.7</u>	27.8	<u>30.6</u>	0.4	5.2	0.7	0.9	2.5	10.2	4.9	1.2	4.5	8.8
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (659)	73.4	23.4	21.9	0.3	5.5	0.8	1.1	2.0	10.6	5.9	1.4	5.5	8.5
	65～74歳	100.0 (256)	<u>76.2</u>	21.5	27.7	0.0	3.1	0.8	0.4	1.6	9.0	5.1	0.4	6.6	5.5
	75歳以上	100.0 (403)	71.7	24.6	18.1	0.5	6.9	0.7	1.5	2.2	11.7	6.5	2.0	4.7	10.4
	女	100.0 (424)	69.1	34.7	44.1	0.5	4.7	0.7	0.7	3.3	9.7	3.3	0.9	3.1	9.2
	65～74歳	100.0 (218)	69.7	32.6	<u>47.2</u>	0.0	3.7	0.5	0.0	2.3	11.0	3.7	0.5	3.2	8.7
	75歳以上	100.0 (206)	68.4	36.9	40.8	1.0	5.8	1.0	1.5	4.4	8.3	2.9	1.5	2.9	9.7
全数		100.0 (3,449)	<u>48.7</u>	28.0	33.3	0.5	4.6	1.4	1.6	3.6	9.8	4.8	1.7	6.7	12.2

8 就業・経済

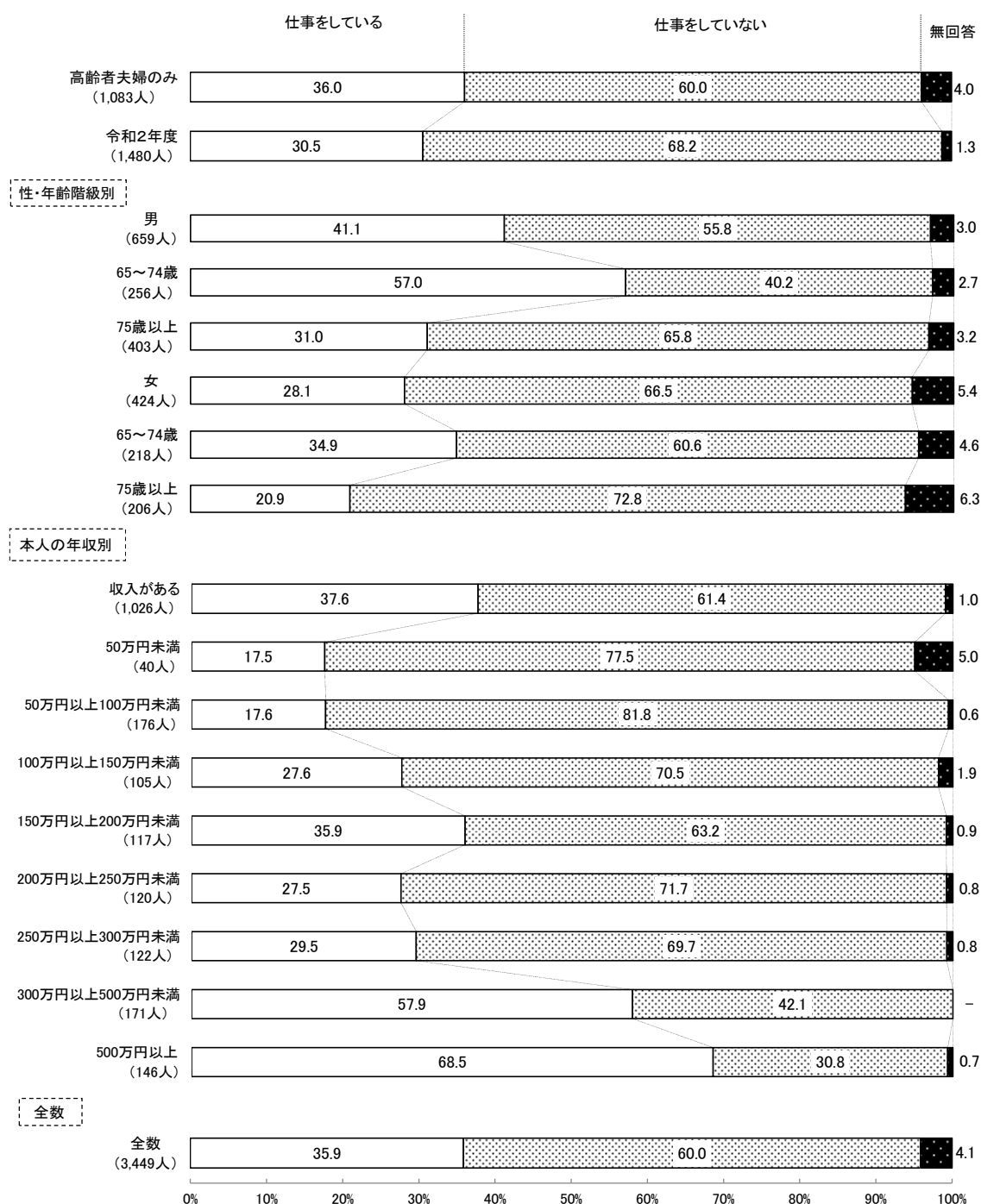
(1) 現在の仕事の有無一性・年齢階級、本人の年収別、全数との比較

現在「仕事をしている」割合は、男性の65～74歳が最も高く、57.0%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）の現在の仕事の有無をみると、「仕事をしている」割合は36.0%、「仕事をしていない」は60.0%となっている。

性・年齢階級別にみると、「仕事をしている」割合は、男性の前期高齢者（65～74歳）が最も高く、57.0%となっている。（図14-8）

図14-8 現在の仕事の有無一性・年齢階級、本人の年収別、全数との比較

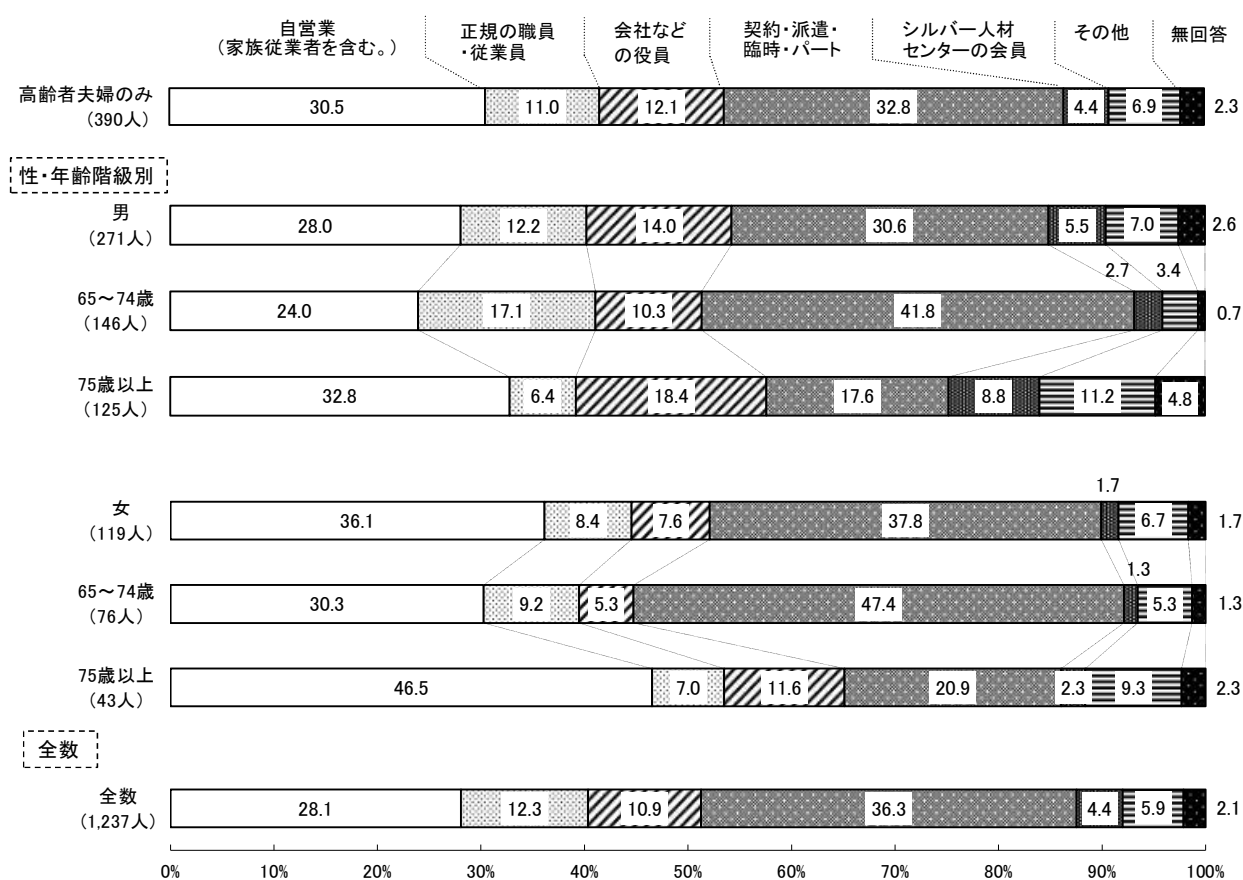


(2) 現在の仕事の就労形態一性・年齢階級別、全数との比較

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）で、現在、仕事をしている人（390人）の仕事（複数している場合は、収入の最も多いもの）の就労形態をみると、「契約・派遣・臨時・パート」の割合が32.8%で最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む。）」が30.5%、「会社などの役員」が12.1%となっている。

全数（36.3%）と比較すると、「契約・派遣・臨時・パート」の割合は、3.5ポイント低くなっている。（図14-9）

図14-9 現在の仕事の就労形態一性・年齢階級別、全数との比較



（注）全数とは、高齢者全体のうち、収入のある仕事をしている1,237人。

(3) 本人の年収一性・年齢階級、現在の仕事の有無別、全数との比較

年収は、男性は「300 万円以上 500 万円未満」、女性は「50 万円以上 100 万円未満」の割合が最も高い

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083 人）の令和 6 年（2024 年）中の年収を性別でみると、男性では「300 万円以上 500 万円未満」の割合が 23.1%で最も高く、次いで「500 万以上」が 18.8%、「250 万円以上 300 万円未満」が 15.6%となっている。一方、女性は「50 万円以上 100 万円未満」の割合が 36.3%で最も高く、次いで「100 万円以上 150 万円未満」が 16.7%、「150 万円以上 200 万円未満」が 9.0%となっている。

男性は年収 200 万円以上が 72.7%、一方、女性は年収 200 万円未満が 70.0%で、それぞれ 7 割を超えている。（表 14-10）

表 14-10 本人の年収一性・年齢階級、現在の仕事の有無別、全数との比較

		総 数	収 入 が あ る	50 万 円 未 満	50 万 円 以 上 100 万 円 未 満	100 万 円 以 上 150 万 円 未 満	150 万 円 以 上 200 万 円 未 満	200 万 円 以 上 250 万 円 未 満	250 万 円 以 上 300 万 円 未 満	300 万 円 以 上 500 万 円 未 満	500 万 円 以 上	無 回 答	収 入 は な い	収 入 の 有 無 不 明
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,083)	94.7	3.7	16.3	9.7	10.8	11.1	11.3	15.8	13.5	2.7	1.1	4.2
性・年齢階級別	男	100.0 (659)	96.1	0.9	3.3	5.2	12.0	15.2	15.6	23.1	18.8	2.0	0.9	3.0
	65～69歳	100.0 (91)	97.8	2.2	—	3.3	9.9	12.1	14.3	28.6	24.2	3.3	1.1	1.1
	70～74歳	100.0 (165)	95.8	—	1.8	1.8	9.7	13.9	18.2	25.5	23.6	1.2	1.2	3.0
	75～79歳	100.0 (207)	96.6	0.5	3.4	5.8	13.0	13.5	16.4	24.6	16.9	2.4	—	3.4
	80～84歳	100.0 (126)	95.2	0.8	8.7	6.3	13.5	22.2	10.3	16.7	15.1	1.6	1.6	3.2
	85歳以上	100.0 (70)	94.3	2.9	1.4	11.4	14.3	14.3	18.6	17.1	12.9	1.4	1.4	4.3
	女	100.0 (424)	92.7	8.0	36.3	16.7	9.0	4.7	4.5	4.5	5.2	3.8	1.4	5.9
	65～69歳	100.0 (102)	89.2	9.8	29.4	16.7	11.8	4.9	3.9	7.8	2.9	2.0	3.9	6.9
	70～74歳	100.0 (116)	94.8	1.7	39.7	21.6	9.5	6.9	5.2	3.4	4.3	2.6	0.9	4.3
	75～79歳	100.0 (127)	96.9	9.4	39.4	15.7	7.1	2.4	3.9	4.7	8.7	5.5	0.8	2.4
	80～84歳	100.0 (52)	92.3	11.5	40.4	9.6	9.6	3.8	7.7	1.9	1.9	5.8	—	7.7
	85歳以上	100.0 (27)	77.8	14.8	25.9	14.8	3.7	7.4	—	—	7.4	3.7	—	22.2
現在の仕事の有無別	仕事をしている	100.0 (390)	99.0	1.8	7.9	7.4	10.8	8.5	9.2	25.4	25.6	2.3	—	1.0
	仕事をしていない	100.0 (650)	96.9	4.8	22.2	11.4	11.4	13.2	13.1	11.1	6.9	2.9	1.8	1.2
全数		100.0 (3,449)	94.3	4.0	15.0	12.8	12.1	12.4	9.9	13.7	11.2	3.1	1.5	4.1

9 高齢者に対して必要な行政の施策や支援〔複数回答〕

高齢者に対して必要な行政の施策や支援は、「年金や医療など国の社会保障制度」の割合が最も高く、54.5%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,083人）が大切だと思ふ高齢者に対する行政の施策や支援は、「年金や医療など国の社会保障制度」の割合が54.5%で最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設の充実」が52.1%、「日中の訪問介護（ホームヘルプサービス）や訪問看護など、介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービス」が48.7%となっている。

（図 14-10）

図 14-10 高齢者に対して必要な行政の施策や支援〔複数回答〕－全数との比較

